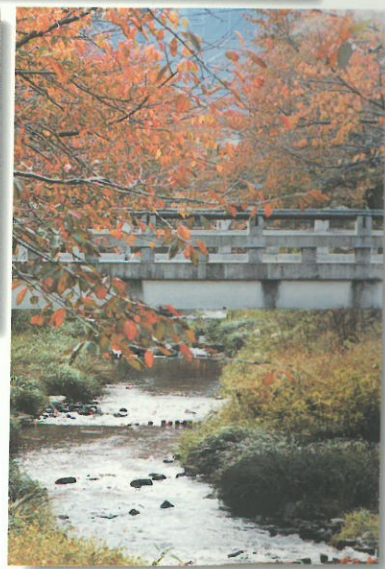
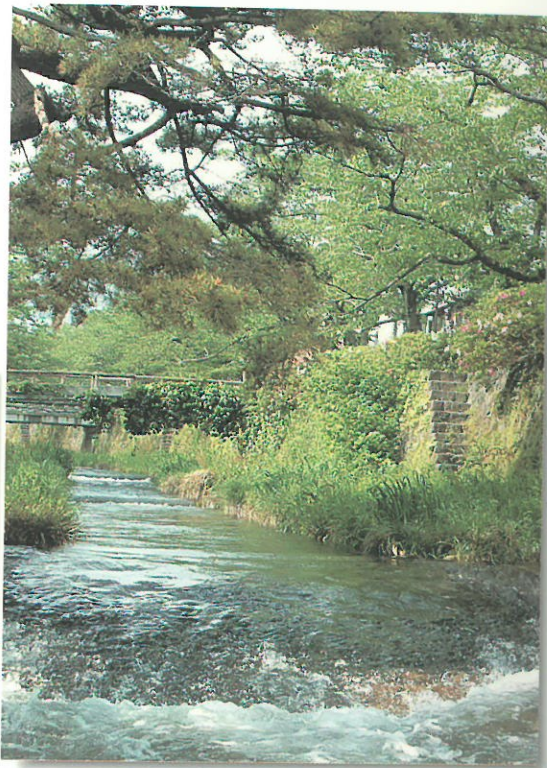


# 山口七夕会

設立5周年記念



山口七夕会  
設立5周年記念



# 山口七夕会

## C O N T E N T S

あいさつ	4
設立趣旨	6
山口七夕会設立の経緯	7
5年間のあゆみ	8
Yamaguchi Photograph collection	13
会員からの寄稿文	21
山口七夕会会則	57
資 料	
役員名簿	58
会員名簿	59





[ごあいさつ]



山口七夕会 会長  
原野 和夫

山口七夕会は、今年設立五年目を迎えます。これを期にこれまでの本会の歩みと活動内容を記録にとどめるとともに、広く本会とその活動を理解していただくために、この記念誌を編纂することになりました。

会員の皆様には、お忙しい中、たくさん御寄稿をいただきましてありがとうございます。

この記念誌には、会員の皆様からお寄せいただいた玉稿のほかに、これまでの会員総会及びその際の懇親会の様子や山口市の名所や古い街並みを伝える写真なども掲載しておりますので楽しんでいただくと存じます。

本会は、設立以来年々会員も増え、また、これからは会員の御家族の方にも本会の行事に参加していただくことになっておりますのでますます充実したものになっていくと期待しております。

本会をさらに発展させるためには、山口市をこよなく愛する方々に、本会とその活動内容をもっともっと知っていただき、どんどん会員になっていただくことが大事ですので、この記念誌がそのためにも裨益することを願っております。

本会の設立五年目を迎えるにあたり、また、この記念誌の発行を契機として、山口市をこよなく愛する人々のネットワークがさらに広がり、本会が山口市との架け橋となって、山口市のさらなる発展と活性化にいささかでも役立つことを祈念しております。

平成十五年七月吉日

[ごあいさつ]



山口市長  
合志 栄一

このたび山口七夕会設立五年目を迎えるのを記念して、このようにすばらしい記念誌が発行されますことは、誠に喜ばしく、心よりお祝い申し上げます。

世田谷区民まつりでの山口七夕ちょうちんの火入れをきっかけに、郷土を愛し、ふるさと山口の発展を願われる皆さまによりこの会が発足されて以来、会員相互の交流を深めながら、郷土山口の発展に寄与されておられますことに敬意を表し心よりお礼を申し上げます。

さて、二十一世紀は「知」と「創」が求められる時代であり、これからはますます民間の英知と活力が行政にも求められることになると考えております。山口市といいたしましても、今後はさらに民間の活力を生かしながら、自然と文化、そして県都として多様な高次都市機能を備えた県中央核都市形成の実現を目指し、諸事業を行ってまいり所存でございます。

そして、本市が「二十一世紀のモデル都市 西の京山口」としてますます発展を遂げるよう導くことが市長としての責務であると考えております。

今後とも、皆様の御支援、御協力をいただきながら、二十一世紀に輝き続けることのできる、活力ある山口市の創造に向けて邁進してまいりたいと考えておりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

終わりにあたり、山口七夕会のみならずの御発展と会員の皆様の御健康、御多幸とますますの御活躍をお祈り申し上げます。

平成十五年七月吉日

## 「山口七夕会設立趣意書」

本会は、山口市を愛し山口市の発展を願う者が、相互の交流を図りながら理解を深めるとともに、ふるさとやまぐちの社会、経済及び文化の発展に寄与することを目的として設立するものであります。

山口市は、来る21世紀を目前とした平成11年に市制施行70周年という節目を迎えます。昭和4年の市制施行当時、人口3万3千人でスタートしましたが、今では14万人の都市として着実に発展をしております。

その間、山口市は県都として、また、行政、教育、文化さらには情報都市として発展してきており、近年では、「自然と文化をはぐくみ躍動する中核都市 やまぐち」を基本理念に、山口市のもつ長い歴史や文化、豊かな自然環境を生かした活力ある中核都市づくりを目指したまちづくりが進んでおります。

また、若者にとって魅力ある就業の場づくりとして、「山口テクノパーク」、「鑄銭司団地」、「山口物流産業団地」を整備するなど企業誘致を全国に働きかけています。

さらには、安心して暮らせるまちづくりとして、世界的に環境保全が進められている中で循環型社会の構築に向け、「山口市リサイクルプラザ」を中核施設として廃棄物の減量化や資源化にも積極的な展開を図っております。

こうしたまちづくりにより、皆様から「環境にやさしいまち」、「人にやさしいまち」として全国的にも認識されつつあります。

今日、ふるさとやまぐちの発展があるのも、郷土を愛する諸先輩方の教えに負うところが大きいと、あらためて敬意を表する次第であります。

この度の「山口七夕会」の設立は、郷土山口市のますますの発展と会員相互のネットワークを広げるとともに、本会とふるさとやまぐちとの情報交換を行うことで山口市の活性化に結びつくものと考えます。

何とぞ本会設立の趣旨、目的に御賛同を賜り、お一人でも多くの方の御参加を頂ければ光栄に存じます。ここに趣意書を添え、御入会の御案内を申し上げます。

平成11年2月吉日  
山口七夕会発起人一同

平成5年8月	山口商工会議所青年部が東京都世田谷区で開催される「ふるさと区民まつり」に山口七夕ちょうちんを出展
平成9年8月	市からの要請により、東京在住山中・山高同窓会を中心に区民まつりにおいて、七夕ちょうちんの火入れに有志が参加
12月	区民まつりをきっかけに本会の設立についての企画が出され、市関係部、課が協議を行う
平成10年5月	市関係部、課で設立までの手続き等について協議を行う
5月	発起人の要請
6月	発起人会開催及び総会開催準備について市関係部、課が協議を行う
8月	(仮称)山口七夕会発起人会開催 (会場：世田谷区馬事公苑)
10月	会員募集 (発起人向け)
平成11年2月	<b>山口七夕会設立総会</b> (会場：中央区日本橋三越本店)
7月	11年度総会(第1回)開催 (会場：世田谷区馬事公苑) 山口市制70周年記念ビデオ放映 事務局：企画調整課に変更
平成12年8月	12年度総会(第2回)開催 (会場：港区虎ノ門パストラル) 佐々木幹郎氏講演「中世の中の長州」
平成13年8月	13年度総会(第3回)開催 (会場：世田谷区銀座アスター三軒茶屋賓館) 福田礼輔氏講演「歴史・文化のまち『山口七夕ちょうちんまつり』」
平成14年8月	14年度総会(第4回)開催 (会場：世田谷区銀座アスター三軒茶屋賓館) 合志栄一市長講話「西の京やまぐちのまちづくり」
平成15年8月	15年度総会(第5回)開催 (会場：千代田区日本工業倶楽部) 石井志都子氏講演 (予定)

[平成10年]

1998

七夕ちょうちんが東京の世田谷区で毎年開催される区民まつりに出展されていたことをきっかけに、山口七夕会設立の構想が具体化。平成10年8月に発起人会を開催。原野和夫氏（現 時事通信社顧問 前パシフィックリーグ会長）を会長として役員を中心に会の設立に向けての活動が始まった。



(仮称) 山口七夕会発起人会開催  
(会場/世田谷区馬事公苑)：市側出席者、小田助役ほか関係部課長 (平成10年8月1日)

[平成11年]

1999

2月設立総会を開催し、会が発足。今後、会員数を増やしネットワークを広げつつ、山口市の発展に寄与するよう決意も新たに。会場は日本橋三越本店。総会終了後、懇親会を開催し、会員の交流を深めた。

会場を世田谷区馬事公苑に移し、区民まつりの開催と同時期に総会を開催した。総会終了後は、山口市制70周年記念ビデオを鑑賞し、ふるさと山口に思いをはせた。引き続き懇親会を開催し、会員相互のみならず市関係者とも情報交換するなどして、交流を深めた。



①世田谷区民まつりふるさと物産展会場：会場を彩る七夕ちょうちん (8月1日)

②設立総会 (会場/日本橋三越本店)：原野会長のあいさつ、役員紹介 (平成11年2月6日)

③懇親会 (会場/②と同様)：和やかに談笑する会員の様子 (会員約50名の参加)



③



④⑤平成11年度山口七夕会定時総会 (会場/世田谷区馬事公苑)：原野会長による議事進行 (7月31日)

[平成12年]

2000

平成12年度の定時総会は会場を虎ノ門パストラルへ移し、開催。総会終了後には記念講演会を開催し、第1回目の講師として詩人の佐々木幹郎氏をお迎えし、「中也の中の長州」という演題で大変有意義な講演をいただいた。また、翌13年に開催された「山口きらら博」の宣伝が市側からされた。この年から会の事務局は山口市秘書課から企画調整課へ変更。



①②記念講演会の様子  
講師：佐々木幹郎氏  
演題：「中也の中の長州」  
日時：平成12年8月5日



③懇親会の席上で市の幹部職員を紹介：平成13年に山口県阿知須町で開催された「山口きらら博」のPR用Tシャツを着用した佐内市長のあいさつ  
④平成12年度定時総会（会場／虎ノ門パストラル）：白上副会長の議事進行

[平成13年]

2001

前年と同様に年4回程度、市の広報誌などの情報誌を全会員に送付。山口七夕会のHPも開設。13年度の総会は銀座アスター三軒茶屋賓館で開催し、記念講演会では大内文化のまちづくり協議会会長の福田礼輔氏を山口からお招きし、山口市の礎を築いた大内氏について貴重な講演をいただいた。懇親会では山口の特産品を抽選で配るなど、なお一層の交流を深めた。



①②記念講演会の様子  
講師：福田礼輔氏  
演題：『歴史・文化のまち山口「山口七夕ちょうちんまつり」』  
日時：平成13年8月4日



③山口七夕会幹事会：幹事、事務局出席。会の活動について協議（8月4日）  
④懇親会（会場／銀座アスター三軒茶屋賓館）：福田礼輔氏、佐内市長らと談笑する会員

[平成14年]

2002

平成14年度の定時総会は前年と同様、銀座アスター三軒茶屋賓館。5月に就任された合志栄一山口市長をお迎えし、山口のまちづくりについて講話をいただいた。懇親会では終始和やかな雰囲気の中、山口ふるさとクイズ大会での昔懐かしい話題や最近の山口市の話題などを題材に、賞品をかけて会員同士大いに盛り上がった。また、この年会設立当初、多額の寄附をいただいた吉田虎禅氏が逝去された。



Yamaguchi photograph collection

【山口七夕ちょうちんまつり】

約四五〇年前から続く伝統の祭りで、数千本の竹につけたおよそ十万个のちょうちん飾りが街頭を火の川にする  
(毎年八月六、七日に開催)

①

①合志栄一山口市長講話会：「西の京やまぐちのまちづくり」

②平成14年度定時総会（会場／銀座アスター三軒茶屋賓館）：原野会長議事進行。白上副会長、山本幹事長（8月3日）

②



③懇親会の様子（会場／②と同様）

④懇親会で行われた「山口ふるさとクイズ大会」で盛り上がる会員の様子

④



⑤雪舟庭(史跡名勝)：市内宮野にある常栄寺の本堂にある庭園は、29代大内政弘が室町時代中頃、画聖雪舟に依頼し築庭したものとわれ、東・西・北の三方を林で囲まれた庭は、水と石に主体がおかれ、簡素にして豪放。雪舟の山水画そのままの名園としてその名を知られている。

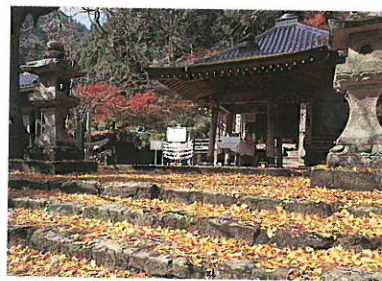
⑥雪舟：室町時代を代表する山水画僧。大内氏の遣明船で民国へ渡り、中国絵画を学んだ。山口では天花の雲谷庵をアトリエとした。



⑤



⑦



⑧

⑦雲谷庵跡(市指定文化財)：明に渡った雪舟が、帰国後、文明5年(1473年)頃からここ落ち着き永正3年(1506年)87歳で没するまで創作活動をしたと伝えられている。雪舟の代表作「山水長巻」などのほとんどがこの地で描かれたといわれる。

⑧龍蔵寺：本尊の大日如来座像は平安時代中期の作と見られ、山口市内では最古のもので、国の重要文化財に指定されている。境内には鼓の滝があり、イチヨウの木は国の天然記念物。

化財が残されています。その他にも、今八幡宮、古熊神社、洞春寺、龍福寺など社寺建築の十数棟が重要文化財として残され、華やかだった大内文化を今によく伝えています。

また、キリスト教布教のために日本に渡来したフランシスコ・サビエルは当時、応仁の乱で荒廃していた京都では天皇への謁見も宣教も許されず、夢やぶれた末に大内氏を頼って山口での宣教を試みしました。サビエルによるキリスト教伝来を記念して昭和27年(1952年)に建てられたサビエル記念聖堂の鐘の音は、再建後の今も山口の人々に愛されています。

大内氏滅亡後は、毛利氏が防長二州の領主となって萩に城を築きましたが、江戸末期には再び藩庁が山口に移り、その後、山口は防長二州の中心地として栄えました。

①国宝瑠璃光寺五重塔：嘉吉2年(1442)ごろに建立されたといわれ、大内文化の最高傑作のひとつに数えられている。今では、山口観光のシンボルとなっており、緑色に浮かぶ瀟洒な佇まいは、時の流れさえもゆっくりと感じさせてくれる。

②山口サビエル記念聖堂：平成10年(1998年)に再建された新聖堂は、神を象徴した「光」と「水」が全体のテーマとなっており、塔につけられた9つの鐘にはそれぞれに平和と幸せを告げるメッセージが刻まれている。



②



①



③



④

③龍福寺(国指定重要文化財)：31代大内義隆の滅亡後、毛利隆元が大内館跡に義隆の菩提寺として再興、明治14年(1881年)に焼失し、明治16年(1883年)に大内村の興隆寺にあった釈迦堂を引堂し、本堂とした。

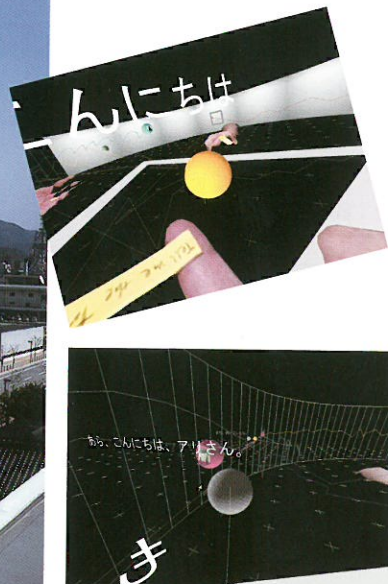
④豊栄神社：毛利元就を祀る神社、一致協力の訓を垂れた「百万一心」の文字を写しとった額が奉納されている。

室町時代初期、1358年に周防の豪族であった大内弘世は、室町幕府から周防・長門・石見の守護に任ぜられて山口の地に居館を構え、そこを本拠地として中国地方と九州に約250年間にわたり強大な権力をふるいました。

大内義弘の菩提をとむらうために建立された国宝「瑠璃光寺五重塔」、画聖雪舟が築庭した「常栄寺雪舟庭」や「雲谷庵跡」など、山口には今も大内氏ゆかりの社寺や文

## 【歴史】 室町時代 大内氏によって築かれた都 やまぐち

History



## 山口独自の個性や創造性をはぐくみ 感性豊かな人づくり

「情報」と「文化」が融合し、発信力のある魅力的な情報（新しい価値）が生まれ、新たな文化や産業を形成しつつある21世紀の時代潮流を捉え、情報技術を利用した表現や創造的な活動が活発に行われる環境を整えるとともに、様々な人や知識・作品との出会いや情報・文化等の多様な交流を進め、市民の「感性」を刺激し、表現力や創造力を高めていく文化施設として、平成15年11月に中園町にオープンする。



「ビッグウェーブやまぐち」の愛称で呼ばれているこの施設は、市民が気軽に集い、自由に参加できる「情報」と「文化」の交流拠点として、「次世代を担う人材の育成」「新たな山口文化の創造」「資料・情報の蓄積・提供」を軸とした文化創造事業や教育・学習支援活動を展開し、市民一人一人の豊かな感性や知性を育み、付加価値の高い新産業の創出をも視野に入れた文化施設です。

### 【山口情報芸術センター】

時代の潮流を「情報」と「文化」で捉え  
情報・文化機能集積エリアの  
中核を担う拠点施設

T O W N



① 中原中也記念館：中也の生家跡に建てられた鉄筋コンクリート2階建ての記念館は、筒状になっており、中也のシンボルであった帽子をイメージしたもの。館内は、全体が展示空間として楽しめるよう回遊性のある展示構成になっており、貴重な資料や愛用していた遺品も公開され、訪れる人が中也の世界にたっぷり浸れる空間が広がっている。

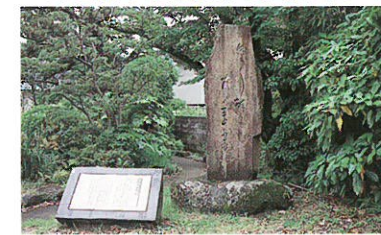
② 中原中也：山口市が生んだ詩人・中原中也。わずか30年という短い生涯を詩のことに捧げた作品は、年とともに評価を高めていき、現在では「日本のランボオ」と称され、昭和期屈指の叙情詩人と言われている。『山羊の歌』や『在りし日の歌』などに代表される作品は、独特のリズムを持ち、叙情豊かな彼の作風をよく表している。



②

③ 山頭火句碑：酒と俳句を友に、生涯を旅することに費やした「現代の芭蕉」。ゆかりの地である山口市湯田温泉には句碑が建ち、自由で素朴な彼の作品が刻まれている。

④ 嘉村礒多文学碑：明治30年（1897年）、山口市仁保に生まれ、「私小説の極北」ともよばれた独自の私小説を確立。常栄寺をはじめ市内各地に文学碑が建立されている。



③



④

### 【文学】

山口が育んだ日本を代表する  
詩人や小説家たち

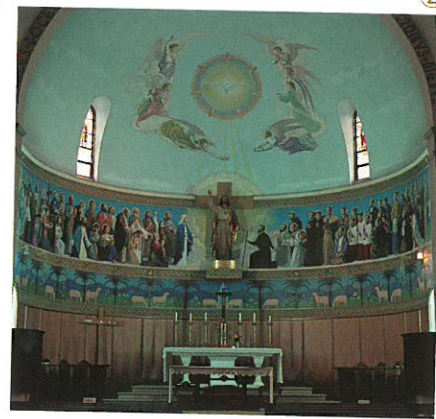
山口ゆかりの文学者としてまず思い浮かぶのは、近代文学を代表する叙情詩人「中原中也」（1907～1937）です。中也は30年の短い生涯を詩に捧げました。また、中也の学んだ山口尋常中学校からは、行乞流転の詩人「種田山頭火」（1882～1940）、私小説の「嘉村礒多」（1897～1933）をはじめ、明治の文豪「国木田独步」（1871～1908）も、山口ゆかりの文学者として名を連ねています。

Literature

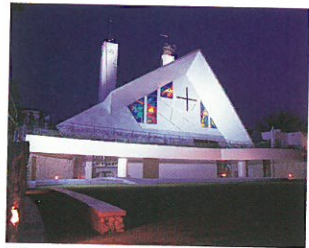


①

- ①在りし日の山口サビエル記念聖堂
- ②旧聖堂内礼拝場
- ③新しくなった現在の山口サビエル記念聖堂
- ④箱山公園からのぞんだ記念聖堂
- ⑤懐かしい山口の街並み



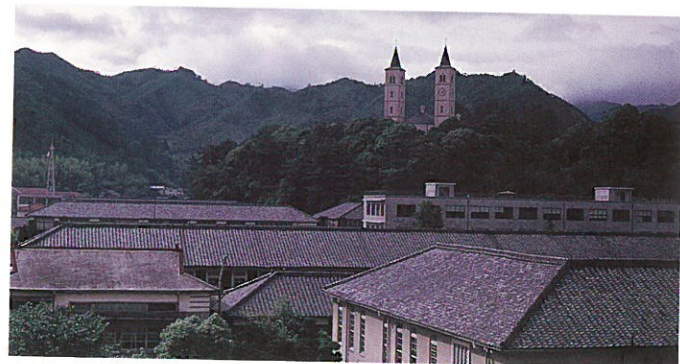
②



③



④



⑤

時の流れは新しい命を育み  
新しい時代にふさわしく街の  
様相をも変えていき、郷愁は  
記憶の中で美しい思い出とし  
て生き続けます。山口にも、  
戦後の歴史を振り返るだけで  
ノスタルジーあふれる光景が  
次々と蘇ります。焼失した、  
サビエル記念聖堂をはじめと  
して、今も保存されている県  
庁舎や、温泉祭りの中に思い  
起こされる湯田温泉の界隈。  
今の山口をたどりながらも、  
心は郷愁に満たされます。

### 【懐かしの山口】

## ノスタルジーやまぐち

Nostalgic

- ①山口萩焼：「一楽、二萩、三唐津」といわれ、茶陶として誉れの高い焼物。特徴は、形・装飾の素朴さ、焼き上がりの土の柔らかさ、そして俗に「七化け」と呼ばれるように長年使用しているうちに茶碗の色彩が変化していく吸収性の良さにある。
- ②大内塗：秋草に大内菱を配した蒔絵や貼金による碗、盆、花器などがある。大内氏の時代、基盤を支えた明との交易の主要なものであった。尚、現代の大内塗は明治に入って再興されたもの。



①



②



③



④

- ③大内人形：大内弘世が夫人のために作らせた人形。夫婦円満を願う人々に喜ばれている。
- ④外郎：山口を代表する銘菓。上品な味がお茶うけに最適。

山口の文化がひととき輝いた室町時代。中国九州に君臨した大内氏は簡素な中にも華やかさをももたらし出す蒔絵が施された漆器「大内塗」や、西の京を彷彿とさせる雅の味覚「外郎」など優れた逸品を生み出しました。また、毛利氏の御用窯によって造り出され、茶碗として名器の誉れ高い「山口萩焼」も山口を代表する逸品です。それらは巧の技によって、今の時代に脈々と受け継がれています。

### 【その他】

## 巧の技が悠久の時を超えて 今に伝える山口の逸品

Other

会員からの寄稿文

(五十音順にて掲載)



浅田育生 (東京都新宿区)

自宅電話番号：090-5376-9005  
 勤務先：山口銀行東京支店  
 勤務先電話番号：03-3231-8441  
 出身地区名：大殿  
 地元出身校：大殿小、大殿中、山口高校

七夕会は、東京で「山口」という故郷に接することのできる貴重な機会だと思っと思っています。同郷の人と接していると、どこか安心感があり心温まる思いがします。



浅海弘士 (神奈川県座間市)

自宅電話番号：046-252-9116  
 e-mail：asami@core.co.jp  
 勤務先：(株)コア  
 勤務先電話番号：03-3795-5116

「山口七夕会」は発足当時から知っていました。入会できるのは山口市に生まれ育った方々だけだと思っていました。一昨年、前助役の原さんから誘いを受け、山口市にゆかりのある人なら誰でも入れることを伺って入会させていただきました。

私は会社の関係で1988年11月から1994年3月までの5年と5ヶ月の間山口市吉敷に住んでいました。

当時、家内と中学校3年の娘と小学校6年の娘を連れて神奈川県から転勤しました。最初は上の娘の高校受験で心配しました。でも山口まで受験に行

き、なんとか山口中央高校に無事入学できました。山口の勤務を終え、引き上げて来るときがまた大変でした。下の娘が山口中央高校の3年になるところだったので、卒業まではと家内と娘を山口に残し逆単身赴任を1年間経験しました。

上の娘は大学生で宇都宮に住んでいましたので、家族が3カ所に別れての生活で大変な1年間でした。

思い起こせば、山口での生活は良い思い出がたくさんありました。東京では毎晩遅く、家族で顔を合わせる時がほとんどありませんでしたが、山口ではほとんど毎晩食事を家族一緒にできました。おいしい食べ物に見所一杯の名所旧跡、毎週のように家族で出かけました。サビエル記念聖堂、瑠璃光寺五重塔、雪舟庭、中原中也記念館、大和保男さんの萩焼窯元等々数え切れないくらい行きました。

また、食べ物では、フグにヒラメ、イカの生は初めて食べました。果物も豊富でした。梨にブドウ、りんご自分で木から取って食べるなんて東京で



⑥

- ⑥後河原の桜
- ⑦山口市街地、鴻の峯を望む
- ⑧今は懐かしい県庁の建物
- ⑨お茶屋橋付近
- ⑩アーケードの中市通りに飾られた七夕ちょうちん



⑦



⑧



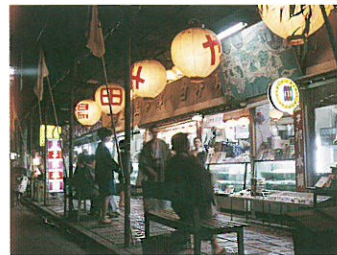
⑨



⑩



- ⑪湯田温泉
- ⑫湯田温泉夜景
- ⑬山口市街地から湯田温泉側を望む



⑫



⑬

は遠出しなければ経験できません。  
こんな土地にずっと住めたら良いな  
と何度も思いました。こんなすばらし  
い土地に生まれ育った方々と交流を深  
められる「山口七夕会」にはこれから  
も期待しています。  
今後ともよろしくお願いします。

### 「空は広がった」

石井能成  
(東京都大田区)

山口に生まれて18年過ぎ、高校を  
卒業すると共に東京に出てもう40年  
なる。  
自分にとって故郷って何だろうと思  
いつつも、今では両親も無く、お寺、  
お墓、そして誰も住んではいないが、  
家だけがあるのが自分にとっての『ふ  
るさと山口』である。  
今までの人生の3割位しか過ごして

いない場所なのに何故か何時までたっ  
ても「いなか(田舎)」「というイメ  
ージが抜けないからこそ故郷なのだろ  
う。

幸い、生家はかつては田んぼに囲ま  
れ、その向こうには樫野川そして山が  
ある立地のため、今でもそのたたずま  
いは基本的には変わっていない。  
しかし、かつて田んぼだった周りは  
ごく一部を除き住宅となってしまい、

春先のれんげに始まり、一面の菜の花  
畑、苗代・水田と蛙の声、黄金色の稲  
穂の後は刈り取り後の田んぼと、季  
節感を追える風物詩はもう全く見られ  
なくなってしまった。

住んでいた子供の頃はあまりに当た  
り前だった田舎の風物も、一度山口を  
出て都会に出てしまえば日々の生活と  
便りに紛れて、いつの間にか過去の  
一風景にしかすぎなくなってきたこと  
は仕方ないことであろうか。

自分が山口にいた頃はまだ国体の前  
で、国道9号線が街の真ん中を貫いて  
おらず、石観音、堂の前、大市、中市、  
米屋町と今と変わらぬ道幅を路線バス

る。

しかし、自分には故郷の空がある。  
緑に囲まれた地と広い空がある、と思  
うと不思議と心も広くなるという言葉  
いすぎであろうか。これが故郷とい  
うものではないだろうか、と思う。

滋 藤 板  
(千葉県千葉市)

山口七夕会五周年おめでとうござい  
ます。

毎回の色々な企画、更には市長を始  
めとして関連部所幹部の方々の参加  
は年一度とは云いながら、なかなか大  
変なことと関係者の御努力と御苦労に  
感服する次第です。

最初幹事の山本君より本会の開催案  
内と参加を要請された時、果たしてど  
んな会なのか、その目的や成果に正直  
なところ疑問や不安を抱いたのも事実  
です。

が走っていたことを今更のように思い  
出す。その市営バスももう今は無く、  
民営に委ねられていると聞く。

住んでいる時には何とも思わなかつ  
たが、今になって思うと昔の町の名前  
は何と風雅だったのだろうか。曰く、  
大殿大路、太刀売、堅小路等、そこか  
しこにある寺社仏閣が数百年の歴史を  
持っている等、全く実感していなかつ  
た。

瑠璃光寺も昔のたたずまいは無く、  
観光地化してはいるものの、歴史ある  
史跡を辿っていく散策も、今になれば  
面白いのではないかと思う。

昔の山口に生きた人間として残念に  
思うのは、かつてのサビエル記念聖堂  
がなくなってしまうことであろうか。  
考えてみれば、市役所、山口東高  
校、そしてサビエル記念聖堂と、不  
思議と火災による被害が多かったこと  
に気付く。

今こそ、年に一度だけの帰省である  
が、行く度毎に何となくほっとする気  
になるのは、何も単にノスタルジーや  
年令のせいばかりではないだろう。

しかしながら市長を始めとした関係  
者の御努力の結果、5回の回数を重ね  
それなりの成果を上げつつあるように  
思えます。初回より参加している者と  
して、この間の記憶に残ったこと等を  
述べさせていただきます。

先ずは講演会です。この講演で中原  
中也のことを学び(恥ずかしながら中  
原中也のことは知りませんでした)ま  
た中世日本における大内文化の位置づ  
けと評価の認識を改め、お陰で日本美  
術等の鑑賞と理解に役立っております。  
更には一地方文化としてでなく、  
独自文化として評価されていること  
を、別の評論にて知る機会があり改め  
て故郷を何か誇らしく思っております。

次には新たな人との出会いです。私  
は現在東京周辺を対象とした小中学と  
高校の同期会に参加しております。  
各々名幹事のお陰で盛会に運営されて  
おりますが、本会は地縁による人達と  
の交遊ですから、従来とは違った人の  
輪が広がりました。

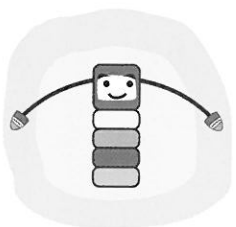
私は2年前に会社を定年退職しまし

幸か不幸か、会社勤めを始めて以来  
転勤を経験せず、ほとんどを首都圏で  
過ごしてきて、都会暮らしに染まって  
いた自分にとっての一大転機はニュー  
ジールランドへの転勤であった。  
都合4年半を彼の地で家族共々過ご  
したが、日本と余り変わらない国土に  
360万人位しか居住していない国に  
住んでみて、日本、ことに首都圏には  
余りに空間の無いことを痛感させられ  
たものだった。  
4年半の生活を通じて、空間の広さ  
をいやというほど実感させられていた  
頃、山口の父が突然亡くなり、帰って  
来て葬儀を執り行ったとき、仁保の火  
葬場の近辺の水田の緑と青い空を見て  
不思議とニュージールランドとの共通点  
を感じた。  
結局それは、空間と緑と空の広さだ  
つたのではないだろうか。  
その後帰国して今でも東京の街なか  
に住んでいるが、空間と緑の無さには  
閉口させられてしまう。仕方ないでは  
済まされない、何だか精神まで狭くな  
り貧困になってしまうような気がす

たので新しい人の輪をことのほか有難く感じております。これも回を重ねることで交友関係が更に深まれば、また新しく且つ楽しい状況が展開するものと期待しております。その意味からも更なる本会の発展継続を望んでいる次第です。

更には市行政幹部との意見交換を含めた率直な会話です。本会のような機会がないと市長さんなんかと会話することは、山口の人達ですら意外と難しいのではないかと思います。

この様な機会が持てることで改めて思うことは、「私が山口に出来る事は何だろうか」ということです。明確なる回答を持っておりませんが、少なくともこのテーマだけは胸に抱いてこれからも山口七夕会に積極的に参加してまいりたいと思っております。



伊藤 克浩

出身地区名：吉敷

帰省こと さやかに風吹く 水無河原

(解説)

自分は、吉敷川の川縁で中原中也の墓の近くに実家があつて、就職するまでここで育ちましたが、盆暮れに帰省する度に故郷の新鮮さ、ありがたさ、温かさを想って読んだ句です。水無河原とは、吉敷川の別名です。

上田 健二郎

私の出身はお隣の島根県津和野で

す。

かつての森鷗外から現在では、美術館も完成し安野光雅画伯の出身地としてすっかり有名になっています。私と山口市との縁は高校、大学を通じて昭和32年から7年間に及びます。

数年前に大学の同期会で30数年ぶりに山口を訪れ、時の移り変わりを痛感いたしました。もちろん大学も場所を変え、サビエルも一新していました。亀山公園の木々も大きく成長し、往年の市内の眺望を望むべくもありませんでした。ただ、瑠璃光寺だけは昔のまま、古色をますます深めて悠然と佇んでいました。それ以来はじめてこの正月、久しぶりの親孝行のつもりで湯田温泉へ母親をつれて出掛けました。ところが、4日の大雪にたたられ、予定していた防府天満宮への初詣も山口の名所の観光もさせてやれず、雪道をほうほうの体で帰ることになってしまいました。次の機会にはぜひもう一度ゆつくりと母親に山口の良さを見せたいものだと考えております。

最近始めた川柳から数句ご笑覧下さ

い。

ローカルに乗って訛りに変える妻

正月は過疎を返上する故郷

年老いた母に気苦労させて恥じ

たまさかの親孝行を嘔う雪

### 「もっと文字通りの山口に」

薄上 博子

(東京都品川区)

「歴史と緑と文化の町」、山口の代名詞。文字通り「歴史と緑と文化の」山口の維持・発展を願ってやまない。

瑠璃光寺、雪舟庭、サビエル聖堂、周囲の山々、一の坂川の桜や蜚、中也館、S.L、誇りに思う歴史の香り、緑の香り、文化の香りは点在している。

これらの「点」がつながって「空間」になったとき、文字通り山口は歴史と

緑と文化の香りでいっぱいになるだろう。

パークロードからお堀の一面のように、歴史と文化を感じさせる緑の「空間」をもっと至るところに。湯田温泉や駅の周辺、そして町全体に。

「点在」を「空間」にして、もっと文字通りの山口に、文字通り「歴史と緑と文化」の山口になってほしいと願ってやまない。

大田 哲彦

(東京都世田谷区)

東京都世田谷区の夏の区民祭りに協賛として山口の七夕提灯が出ている。

いつの頃から始まったのかは、はっきりりと知らないが、何でも山口出身のU氏の盡力で参加するようになったと聞いている。私は残念ながら未だこのお祭りを見に行っていないが、今年には是



「61才にして初めての富士登山！」  
岡村 史利 (東京都板橋区)

出身地区名：白石

地元出身校：昭和34年山高卒

一度は登って見たかった富士山少し時間の余裕が出来てきたので、思い切った挑戦でした！

昨年7/26(金)〜27(土) 元会

社の若い人達と富士宮口新五合目より  
ご来光を目指し6時間30分掛けて山頂  
へ 3時間弱山頂にいて それから下  
山 5時間かけて富士宮口新五合目に  
着  
脱落せずに登り下り出来た事に 先ず  
一安心！ 未だ見捨てたもんじゃない  
ぞ…

写真の背景は山頂の噴火口です  
富士登山のおかげで 早朝ウオーキ  
ングを始めましたが今も続けておりま  
す(6.5K 1時間10分:略 ゴル  
フーラウンドの距離)



狂言の研究をされ、「山口に残存する  
鷺流狂言」を出版されたということま  
で拡がりました。

またさらに、昨年春、帰山の折、  
小・中学の同級生である米本稀之君  
(山口市下小鯖)宅へ久し振りに寄っ  
て昔話などしているうちに、国立能楽  
堂での「千鳥」の太郎冠者役は、彼の  
長男の文明(ふみあき)氏であると聞  
き、びっくりしました。さらに昨年5  
月の「市報やまぐち」に県無形文化財  
保持者として、1頁にわたり顔写真入  
りで大きく紹介されているのを見て、  
またびっくりするやら、幼な友の息  
が！と嬉しいやらで、その頁は今も保  
存しています。そしてまた、文明氏の  
御長男の太郎君が、現在東京芸術大学  
邦楽部能楽科に在学中のことを米本君  
から聞き、今後、山口市出身の伝統芸  
能者として大成されることを期待する  
や大です。なお、太郎君は観世流能楽  
の関根門下の研究生として能楽会に属  
しておられるので、何れ能楽堂の舞台  
に立たれることもあるうかと思いま  
す。その節は、山口七夕会々員の皆様



「山口七夕会と能狂言」  
岡本浩次 (東京都府中市)

自宅電話番号：042-369-0641 (FAX兼用)  
出身地区名：大内  
地元出身校：県立山口中学校

山口七夕会が創立された2年目の総  
会で、山口に鷺流狂言が保存されてい  
て、これが全国(佐渡、佐賀)と一緒  
に、国立能楽堂(千駄谷)で、日本で  
初めて公演されると聞き、山口にも伝  
統の能楽がという少しの懐かしさと驚  
きの気分で観に行くこととした。平成  
12年10月28日のことです。劇場でプロ  
グラム「鷺流狂言の流れをたどって」  
を手にし、国立能楽堂特別企画公演、  
平成12年度芸術祭協賛公演、文化財保  
護法50年記念と銘打ってありました。  
そして、小林 貴(武蔵女子大名専教  
授)の「狂言鷺流の興廃と地方伝播」

とともに応援できたらと願っていま  
す。

昨年8月の総会で合志山口市長さん  
のお話の中で、山口の21世紀は生命を  
豊かに文明の世紀にし、山口を住みた  
くなる街、見たくなる街にしたいとい  
う抱負を聞かせていただき、文化の街  
山口のさらなる発展と期待を持ち続け  
ています。そして、今浦島の私達に、  
掘り起され研究された多くの山口文化  
の話聞かせて戴けたらと山口七夕会  
に期待しています。

小川 勝 義

拝啓  
山口七夕会様、大変ごぶさたしてい  
ます。

稲田秀雄(山口県立大助教授)の「山  
口鷺流の歴史と現状」という丁寧な解  
説が記されていました。

舞台では、山口鷺流狂言保存会の皆  
さんが「千鳥」「因幡堂」を見事に上  
演され、現在有名な和泉流、大蔵流の  
ものに劣らない独自の伝統的所作など  
が注目されたのです。前記解説によれ  
ば、平成11年には、保存会結成45周年  
記念公演が、野田神社能楽堂で催され  
たこのことから、保存会の結成は、  
昭和29年で、連合国の占領を脱し、間  
もなく山口において伝統文化への自覚  
と取り組みは始められたということに  
なります。戦前の山口は軍都(42連隊  
本部)、戦後は占領軍の軍政部の置か  
れた所で、早々に伝統文化が復活の芽  
を出し、守り続けられたことに大きな  
誇りと感激を覚えました。

その後、私の興味は、山口の地では、  
昭和22年当時、山口高女の石川弥一先  
生は、能本(隅田川など)を国語古典  
の教科書とされ、鼓を叩いて生徒に聴  
かせられたということや、その後、県  
立女子短大の教授として、山口の鷺流  
しょう。

世の中の変化が目まぐるしいといっ  
ても、少年時代しか知らない山口の街  
は余り変わりようがないのではと決めて  
いたものの、私の新生活のスタート地  
点であったあの「葉香亭」が今は昔の  
面影を失くしていると聞くにつけ、山  
口にも大きな時代の流れがおしよせて  
いると知り驚いている次第です。

技術の進歩により山口へのアクセス  
は大幅に短縮され、日帰りも充分可能  
な現在であるが、それに反比例し山口  
へ帰山の回数が少なくなってきたこと  
が、たまの帰山の際には、その都度新  
たな感動を与えてくれるのも山口のも  
つ風土のおかげと感謝しています。

今まで山口からの情報源であった親  
戚の方々も高齢となり、段々情報の仕  
入れも減少しつつあった頃、設立まぢ  
かの山口七夕会を知り早速入会しまし  
た。以来4半期毎に送られてくる「市  
報やまぐち」や情報誌を通じて新しい

山口の息吹を感じています。  
今回山口七夕会が5周年を迎えるにあたり、この間、会への協力がいかに少なかったかを反省し、会の次なるステップへのために微力を尽くしてみようと思っております。

敬具

鬼武正彦 (東京都世田谷区)

自宅電話番号：03-3439-4310

勤務先：自営業

出身地区名：白石

地元出身校：山口高校

昭和31年白石中学校卒業の在京(関東エリア)の者が約30名、現在「鴻の峰会」と称して年数度会して飲み会やゴルフを楽しんでおります。還暦を過ぎて益々盛ん。でも最後はふるさと(故郷)山口の話題。そしてそのパワ―の源は遠い昔の山口の少女少女時代

ではないかと思えます。

また、年に数回送っていただいている山口が満載された情報誌も魅力的です。

山口七夕会は、まさに同郷の絆を結ぶ交流の場であります。

山口七夕会の今後ますますの御発展と会員の皆様方の御健勝と御多幸を心からお祈りいたします。

### 「山口市大殿地区の再開発を願う」

河村良昭

山口七夕会の役員である山口高校同期の山本和生君から一筆したためるようにと話がありましたので、山口帰省時に感じていることを書いてみます。

私は戦後、疎開先の阿武郡旭村新切(チョウノギリ・佐々並の萩寄り)から県庁近くの借家住まいから天花の雲谷庵下の自宅に移り、18歳で大学入学

にあります。

片山哲男

勤務先：山口県東京事務所

勤務先電話番号：03-3502-3355

出身地区名：嘉川

地元出身校：山口高等学校

山口七夕会の創立5周年記念誌の発刊おめでとございます。

山口七夕会を立ち上げ、そしてこれまで会を発展させ、運営してこられた、会長、幹事長、事務局の皆様御苦勞に対して敬意を表します。

私は、昨年4月東京勤務となりまして、会員に加えていただきました。

今まで、「ふるさと」について余り意識したことはありませんでしたが、山口を離れ、また、当会に参加して始めて、「ふるさととは、遠くにありて

のために山口を離れ、その後電気メーカーの重電一筋で昨年4月に退職しました。最後の10年は大型変電所の建設業務で、不況の現状ですが、又、応援業務がありうるので生活の本拠地はここ横浜にしております。

冬場を除き月1週間程度は田舎に草取りを主目的に帰省しています。そこは萩往還のルートで宅地、田畑、山が見るに耐えられるように最低限の作業をしています。

以前耕作していた人の不慮の死以降手伝ってくれる人は皆無の現状です。残念ながらこれが田舎の農業の姿です。帰省時の宿は一の坂川沿いで伊勢橋近くの家内の家です。

このような訳で私の思い出の山口市は大殿地区です。亀山、野田神社、県庁、旧・山口高校、旧・高商等々で大いに遊ばせてもらいました。確かに国道9号線やパークロード等再開発で便利になった所もありますが、散歩で堅小路や住宅地を見ると昔の面影がなくなつたように思います。4m道路がないため家を作れない空き地が多く、ま

思つもの」という言葉が実感出来たよ  
うな気がしています。

圧倒されるようなエネルギーとスピードにあふれ、情報、文化、便利さなど求めるものが何でも簡単に手に入る魅力ある東京の営みの中にも、心のどこか片隅にふるさとの存在があるのだなと思えました。

数年前、山口県が発信した「東京卒業」という県のイメージアップとUターン促進を図るメッセージ広告に全国から大反響があり、ふるさとについての様々な思いが寄せられたそうですが、なるほどと思いました。

名付け親は誰か知りませんが、「山口七夕会」、心地よい響きを持ったネーミングですね。頭の中に、ぱつとふるさと山口が連想され、友人や知人に会えるかもしれない、また、ふるさとの様子が懐かしく聞けるかもしれないという期待感が湧いてきます。

総会は、講演等の催しもありますが、会員が相互に交友を深め、新しいネットワークを広げる場となっており、楽しみにしておられる会員の方も多いの

た改築することも難しいようです。

そのせいか山口の住宅は郊外に多くなり、大殿地区はそのうちゴースタウンにならねば良いかと願うのみです。関東地区でも多摩ニュータウンで高齢の人が多くなる問題や、東京都心に人口回帰現象が起こっているようです。

この大殿地区で道路整備が行われ、若い人が増えて欲しいものです。病院、店、文化施設を利用しやすく、防災等にも有効な筈です。

市報やまぐち2月号の③ページに『大内文化まちづくり推進計画を策定』とありますが、ぜひ人口回帰の面についても考慮したいと考えます。

一方、国内では今後、外国の観光客を招致する観光産業に力を入れようという計画しており、これに対応する山口版がやまぐち2002年11月号の⑪ページでしょう。

私は会社で15年程度、外国商売で英語、中国語、スペイン語を使っていたので日常会話程度をベースにした観光案内で故郷にボランティアのお返



しができればとも考えています。

### 「馬事公苑での思い出」

京野 賀典

第1回山口七夕会は、世田谷区民祭の開催されている馬事公苑で行われました。

夏の暑い日、軽装で参加しましたが、やはり汗ばむ状況で、懇親会はお揃いのTシャツ姿の市役所の方々の努力もあり、会は大いに盛り上がり、私の同期の連中は、ちようちんやポスター等をもらって上機嫌でした。

私は、懇親会后、家族等と合流し、全国から出店されている健全な縁日を、素敵な山口のちようちんを鑑賞しながら、しばしの間楽しみました。

回目もその又次も、それはお墓参りであった」と聞かされ返す言葉もなかった。

しかし昔はそれが極く普通の常識であったと思う。

その後平凡な市井人となった今では若い頃の力みも自然に抜け落ち、不思議な事にあれ程疎かった山口市との人間関係が嘘の様に蘇ったのである。

多忙を極めた企業人の頃不義理を重ねながらも曲りなりに参加していたのが、三越での山口県物産展で味覚と癒しの何かを感じ欠かさず買い込み、催場で驚きの人との邂逅もあった。靖国神社での「元治元年甲子の変」所謂禁門の変の例祭。私の先祖の所領地万倉(現楠町)の村人会。防長倶楽部。旧山口中学の同窓会等々であった。しかし平成7年頃から私と山口市を加速的に結び付ける事が相次いで生じたのである。

その一つが旧山口中学卒業50周年での旧友との再会と濃い友情の復活である。第2は学友の肝煎りの一言で、平成10年に一の坂沿いの「赤れんが」で

私の誘いで参加した7名も上機嫌で帰って行きました。私達家族は、味をしめて、翌日も世田谷区民祭に参加し、家内は観葉植物、果物等を買ひ、都会での田舎風オアシス(世田谷アーバンリゾート)を楽しみ、来年も家族で行こうねと話しました。都合で参加出来なかった連中も、我々の話を聞き、「来年は参加するよ」と言ってくれました。

夏の暑い夜、山口のちようちん並木を觀賞し、山口市ゆかりの方々とお話をし、日本全国の食文化、花木等を取り組むブルな値段で味あわせてくれた私(家族)にとって思い出に残る山口七夕会でした。



の娘華子(院展所属)の回顧展が市教育委員会・文化振興財団の主催で開かれ、実に1000人に近い方々に御高覧を戴いて私共も素晴らしい数々の出会いに恵まれたのである。又その会場で、市民文化活動に尽されている田村幸志郎氏とお近付きとなり、同人誌「蒙談」(編集責任者金本利雄氏)を初めて手にした。やがて投稿を勧められ執筆のたび毎に、此れ又新しい皆さんとの接触があつて身に余る沢山の御好意を頂戴した。

加えて山口七夕会のお仲間になってから知り得た情報では皆さんの真摯な街造りの熱気が直に伝わり、財政公表の数字からもより深い理解をする事が出来た。

ひと口に観光都市としての整備を唱えてもその完成は遠いと思う。未完を恐れることなく何年も継続する事で結果的に大きい歴史保存の街に練り上げる事が大切と思えてならない。

七夕会も一過性の数字を問わず首都圏での山口出身者の集うイベントとして地道にその輪を拡げて載せたいと存

### 「遠きを結ぶ」もの

國司 由行 (神奈川県中郡大磯町)

自宅電話番号：0463-61-7870

出身地区名：天花

地元出身校：旧山口中学校

今年で75歳になる私の出生地は、その昔は山口市大字上宇野令と称し町名は天花、今は天花一丁目となった。呱呱の声をあげた在所がその儘本籍地とは誠に快く、幸せである。

また天花は天華とも書いたが長女の名を華子とした所以も、忘れがたき古里を想つての熟慮の一字であった。私の生れ育つた家(旧毛利家野田別邸の一劃)もその姿は既に跡形もないが、天花と謂う呼び名のみが過ぎし日との繋がりとしてしっかりと存在している。十年前までの私は一企業人として只管我武者羅に働き、古里を遠く離れて省みる余裕すらない典型的なコチコチ人間であった。息子、娘の言葉では「父の故郷の山口とは、お墓参り、2

じます。要は在京者の貢献度の大小ではなく、現在の夫々が置かれた境遇の中で遠き山口と結ばれる活性と癒しの場であればと願って居ります。以上

### 「世田谷の『松蔭神社』に行ってみよう。」

蔵成 洋三 (東京都目黒区)

昭和47年春県立山口高校を卒業し、はや30年が過ぎました。

1浪で札幌に、2浪で福岡にと大学まで回り道(親には大迷惑をかけてしまい)をし、やっとのこと東京に落ち着きました。

以来ずっと東京に暮らし、妻と息子(中学2年で4月から3年)3人で暮らしています。

妻の実家は、東京目黒(我が家から

会しました。その時の懇親会で、中原中也の長州弁で書かれた詩が話題になりました。私の体内に眠っていた、ふるさとの言葉に対する郷愁が沸き上がりました。

そして幸いなことには、中原中也賞受賞式で「中也の長州方言による朗読」として語らせていただくことになりました。ところが困ったことに、舞台活動の為に標準語による発声訓練を受けた私には、山口弁のイントネーションがしっくりと戻ってきませんでした。この時、私を助けてくれたのがUターンした中学校時代の同級生でした。彼女は、お母さん、今は亡き中学時代の恩師にまでマイクを向けて、私の依頼した台本を山口弁で読んでもらい、最後に彼女自身のコメントも入れたテープを送ってくれました。そのテープを何度も聞きながら、新鮮な気持ちになると同時に、ふるさとの言葉を改めて噛み締め、ああ、ここに私の原点があると、体感しました。ことばの持つ力の不思議さを感じました。生きたことばはその土地と共に輝きます。

金子みすゞの詩世界を語り続けて13年目に入りますが、中原中也の詩世界を母・フクさんの視点で語り続ける、新しいライフ・ワークを見つけることができました。山口七夕会に入会させていただいたお陰です。感謝申し上げます。

「落花帰根」という言葉が、最近とても気に懸っています。世の中は当り前のように移り変わって行きます。造られたものに永遠性はありません。だからこそ、今、生かされたいのちを精一杯、輝かせてみたいと思います。私の朗読表現を通して、次世代の担い手である子供達と、ことばと心のキャッチボールができれば最高です。2月28日に出身小学校で、900名の後輩に、日本語の美しさ、ことばのすばらしさをみすゞの詩を通して伝えます。育ててもらったふるさとへの感謝の心で語りたいと思っています。

微力ですけれども、言葉による表現活動で、何か山口とのパイプ役として少しでもお役に立てればと思っています。どうぞ皆様お声をかけて下さいませ。

私は、父が旧制高等学校の教授をしていた関係で昭和2年に西白石で生まれ、亀山幼稚園、師範附属小学校の4年生まで、10年間を山口で生活した。当時はまだ豊富な自然に恵まれ、中讃井（今はもうこの町名の地域はない）の自宅裏の小川では蜆がとれ、どこがたくさんいた。春になると樫野川の対岸には螢が群生して、日暮ともなるとその光がまるでイルミネーションのように明るく輝いて川面を美しく彩っ



「昭和初期の山口(市)の生活」  
小島 明 (東京都世田谷区)

自宅電話番号：03-3416-3873  
勤務先：停年退職（元NHK）  
（元）NHKテレビ（東京）プロデューサー  
出身地区名：西白石  
地元出身校：旧制山口師範附属小学校

5分位の距離）で山口とは全く縁がありません。

強いて言えば、実家の御先祖が幕末に桑名藩の参勤交代で江戸に付いて来て、国学の方へ転向しペリーが浦賀に來航した時に偵察に行ったと言う話は聞きました。

ひょっとしたら下田で合衆国蒸気船「ポータハン号」に渡航しようとした吉田松蔭とどこかですれ違っていたかもしれません。

さて、私が世田谷の「松蔭神社」に十五年前から参拝するようになりました理由をこの場をお借りして述べたいと思います。

司馬遼太郎著の「吉田松蔭」、また幾多の長州藩にまつわる小説を読み漁っておりまして、松蔭先生が萩から江戸に遊学するにあたり、萩で採れた「ワカメ」をまぶした「おにぎり」を鎌倉に住んでいる遠縁の家に寄っていくように言われ、背中に担いで一ヶ月かけて旅し、その「ワカメおにぎり」を渡したという記述があり、誠実に感銘しました。



そこで、かねがね一度世田谷の「松蔭神社」を訪れようと思っていました。ことありまして、山口から萩で採れた「ワカメ」を送ってもらい「ワカメおむすび」を墓前に供えました。もちろん妻と同行です。子供を授けてもらうこともお願いしました。

その翌年、今中学2年の息子が生まれました。なんだか妙な縁を感じております。

それ以来、春と新年には必ず参拝しておる次第であります。（松下村塾も設置されてます）松蔭先生の門下生であった高杉晋作、伊藤博文、井上聞多、等によってこの世田谷若林の地に改葬

4年前、自分の原点を見つめ直そうとしていた時に、山口七夕会を知り入



小口 ゆい (埼玉県新座市)

自宅電話番号：0424-74-4851  
勤務先：朗読女優  
出身地区名：平川  
地元出身校：山口県立中央高校

されました。この地は長州藩の江戸別邸で近くには松蔭先生に私淑していた「桂太郎」の墓もあります。学問の神社ですが、もろもろのお願い事に「こりやく」があると私は信じております。信じるものは救われます。

アクセスは「東急世田谷線」で三軒茶屋あるいは下高井戸から乗車し「松蔭神社前」下車

長州出身の諸兄、また御関心のある方は是非一度訪れてみませんか。

ていた。

市内でも少し中心をはずれるとまだ水田が数多く残っており、秋になって稲の収穫が終わると、脱穀をしたあと、の稲の束が丸くつみあげられた「トシヤク」が方々に出来て、私達子どもは、その中に洪桶を奥深く押し込んで、藁の発酵熱を利用した渋ぬきをやっておいしく食べたものであった。

取り入れの終わった田圃での、もう一つの思い出は、42連隊の兵隊達が野外演習を行い、小銃や機関銃の激しい銃声が響き渡って、まるで戦場に居るようであった。演習が終わると兵隊達は民家に分宿するのだが、私の家にも一人の将校と数名の兵がやって来て、庭に三又銃を組んでからどやどやと家へ上がってきた。彼等が持参した野戦食は乾パンや缶詰が主であったが、もの珍しさもあって試食するとおいしかった。特に牛肉の缶詰は美味であった記憶がある。

子ども達のもう一つの楽しみは、演習が終わったあとに素早く行って、銃の薬莖を拾い集めることであった。勿論

薬莖は貴重な資源であるので（真鍮で

できている）兵隊達は銃の発射後、空の薬莖を拾い集めて移動することになっていたが、どうしても草叢や樹の茂みの中に何発かは残っていた。それを拾い集めるのである。集めた薬莖は宝物となるが、高学年にもなると、その中に紙糊（陸上競技のスターター（ピストル）の火薬）をつめて弾頭（火箸）を空中へ飛ばして喜んだものである。まさにペンシル・ロケットの走りであった。しかし、こんな危険な遊びは今ではとても許されないだろう。

私が物心がついた頃、山口でもラジオ放送が受信できるようになった。広島放送局の中継局が防府にできたためである。しかし、山口は四方を山で囲まれているので、受信状態は悪く、我が家では屋根の上に高いポールを2本立て、その間にアンテナ線を張り渡して、弱い電波を辛うじてキャッチし、当時としては最新式の3球式スピーカーラジオで受信したものである。そして、そのラジオで昭和8年第一皇男子ご誕生（現在の天皇陛下）のニュース

易に見ることができないのは残念であった。しかし、山口は戦時中の空襲を受けていないので、まだまだ昔なつかしい名所旧跡がたくさん残っており、それらを巡るのに長い日時が必要だった。

斉藤 光生 (栃木県黒磯市)

自宅電話番号：0287-62-7868

勤務先：不二ラテックス(株)

勤務先電話番号：03-3259-2518

出身地区名：阿武郡阿東町生雲

地元出身校：山口高校

山口七夕会に入会してから、東京で催される七夕会に出席出来ずにいます。

催しが週末のため、那須から上京することが出来ないためです。

Weekdayは東京に勤めています。週末には、家での仕事が多くあり上述の如しであります。

現在住んでいる黒磯市は、長州との関係が深く、明治初期から多くの長州の偉人の別荘があります。乃木神社のある乃木別邸、青木周蔵邸、山懸有朋別邸、毛利別邸があります。町の名前も豊浦から移住されて来た人々からの由来で豊浦町の名前もあります。山口の人にはあまり知られていない那須地方ですが、関係の深い町であります。

### 「夏みかん」

酒井和夫 (東京都江東区)

自宅電話番号：03-3641-8202

勤務先：太平洋セメント  
アドバイザー

山口での生活は、小学校入学から、高校卒業までの6・3・3制そのものの12年間で、63歳の現在では20%にも

や、昭和11年2月26日の陸軍クーデター（いわゆる2・26事件）の臨時ニュースを聞いたのであった。このようにして、昭和の激動期に突入し、世界情勢も風雲急を告げる時代になっていったのだが、山口はまだまだ平和な、自然の美しい古里であり続けた。

以上、思いつくままに昭和初期の山口についてとりとめもなく書いてきたが、私が最近、半世紀振りに山口に帰ってびっくりした事は県道204号と国道9号という2本の立派な道路が街を東西に縦断し、コンクリートのビルが立ち並んだ近代都市になっていた事である。しかしその反面、私が蜆をとり、どんごをすくった小川は枯れはて、たくさんあった田圃はすべて個人の住宅や公共の建物と化し、私が子どもの頃、姫山に向って大声を出して山彦が返ってくるのを楽しんだ遊びも、高いコンクリートの建物が邪魔して不可能となっていた。そればかりか、幼い頃に親しんだ山々（鴻ノ峰や姫山など）が平地からは高い建物が増えた為には容

満ちませんが、心の中の80%を占めている感じです。格言通りの「山口男に萩女」の結婚で、昨年の暮れに女房の所用で萩を訪れました。もちろん何度と無く訪ねた土地ですが、今回は印象に残りました。

石見空港から萩への直行便があるのを見つけて、海岸沿いの美しい景色の中、案外早く萩につきました。レンタサイクルを借りて港へ行き、島への便を調べましたがすべて出港済みか、帰り便がありません。やむなく案内図で「鶴江台」と言う小島が橋でつながっているのを見つけて行ってみました。海岸沿いの懐かしい感じの小道は途中で行き止まり、「台」の名の通り山道につながっていました。人っ子一人居ない山道を登ると上は夏みかん畑でした。冬晴れの下で、緑豊かな木々の中に美しい黄金色のみかんがたわわでした。山道のどの湯きもあって一つ失敬して、みずみずしくもすっぱいみかんを歩きながら食べました。

その前1ヶ月ほどなんとは無しの膨満感に不快感を抱いていましたが、気

が付くとその日の夕食後からすっかり膨満感が無くなりました。ふるさとの元氣な自然の恵みが私を癒してくれた気がします。帰京後、菩提寺の住職さんに夏みかん農家を紹介していただき、5kgばかりのみかんを直送して貰いました。萩の鶴江台の上で燦々と輝くみかんを思い出しながら食べ、その後胃も快調です。

1月下旬に三越で行われた恒例の山口物産展にはその農家が出品していました。再び10kgばかり発注し、早速届いたみかんを、食するだけではなく皮の匂いを風呂で楽しんでいきます。毎日の夕食のデザートとして黙々と食べ、ふるさと山口への感謝を深めています。あまり野性的なすっぱさに女房子供、親戚からも賛同者が出ています。

以上

白上孝千代

私の生家は梅雨どきになると毎年溢水に見舞われた。田畑から高さが約2メートルある家の石垣をもう少しで超えようかという水位になる。私はもの心ついた頃から石垣の近くに蹲り、水嵩が増すのを飽かずに眺めていた。後に「高松城の水攻め」のことを知ったが、正に我が家は高松城であった。父たちはこのように水嵩が増しても一向に平気であった。しかし、小さな私にとっては今にも家が流されるのではないかと気を揉んでいた。

すると急に半鐘が鳴り出し、「婆さんが流されたぞうー」という良く通る声が遠くから聞こえてくる。婆さんを救助するためであろう、船が2、3隻泥水の中に漕ぎ出しているのが見える。日常生活では船を使う場面がないのに、このような船が一体何処に保管

されているんだろうと不思議でならなかった。婆さんは結局見付からなかったという話を後に聞いた。このような状況は毎年繰り返された。

梅雨どきの溢水前かなり水嵩が増した頃、父は榎野川の土手の状況を見に行っていた。私も後ろをついて行っていた。すると土手の傍の竹の先端に避難していた蝮の雌が、下を歩く人間を目掛けて降ってくる。気をつけないと蝮が噛み付かれてしまう。梅雨どきは蝮のお腹の子が母親のお腹を食い破って外に出てくる時期である。また、いっぽうで、竹藪の地面が水に覆われ、竹の先端に追上げられているとあっては興奮せざるを得ないのである。降ってきた蝮は取り抑えてもち帰り、皮肉を剥いで三角状の骨だけを金串に刺し、軒下に差ししておく。この骨は二、三昼夜も反転を繰り返しうねっている。

このような状況は小学1年生のときまで続いた。以後榎野川は底幅約50メートル、上幅約10メートル程度の堤防

が築かれたのでこのような状況は見られなくなった。しかし、怖いもので、小さい時に毎年刻みこまれた溢水時の記憶は強固である。今でも帰郷すると必ず榎野川の堤防を歩く。また生家の付近も建物がふえ、昔の面影はかなり失われている。しかし、何かのことで田舎のことを思い出すと、この現況を押しつけ何時のまにか幼時の記憶が脳の中を占領してしまっている。一種の思考停止病かも知れない。氣をつけるにこしたことはない。

「我家はネコまで山口弁？」

関 和 貴 (埼玉県志木市)

私が『山口七夕会』に加えていたのは昨年の秋頃で、山高同窓会でも偶然にもお話しをする機会ができた、

山本和生先輩のお勧めによるものです。今後ともよろしく願います。

一昨年の秋に勤務の都合で大阪から東京に出て参りました。これが5回目の東京生活です。実は、40代の後半に東京での生活からUターンし、僅か1年間ですが、山口に戻りました。その後再度、大阪・東京で仕事をする事となりました。

家内(防府市出身)と共に、今回は山口出身の猫2匹(山口市陶の動物愛護センター出身と萩市笠山近辺のゴミ捨て場出身)を引き連れて大阪・東京と転動して参りました。猫とともに山口に戻った時に、生まれて間もない仔猫から飼い始めた息子達です。(ネコにしてみれば拉致されたと思っっているかもしれません。)

当初、萩出身の猫には『松蔭』、陶出身は『益次郎』と名づけていました。が、Uターンして住んでいたのが萩市近所の人の響きの視線を感じて改名しました。『ポチ』と『ゴン』です。彼ら『山口ネコ』に対して、昨年夏ごろから我家に居候を決め込んでいる野良

の仔猫が『埼玉ネコ』。(玉ネコ…勿論雄です。)

この山口ネコ(山ネコ)と玉ネコの嗜好は結構違います。例えば魚。マグロ。玉ネコは大好きですが、山ネコは舐めるだけ。山口は白身の魚が多かったせいでしょうか？白身の魚以外は無視しています。

金太郎の干物。玉ネコは手で恐る恐る触るだけ。山ネコはくわえて唸り声をあげ、2階に駆け上がりフガフガと食べます。

蒲鉾。山ネコは山口特産の『焼き抜き』なら、板まで綺麗に舐めています。が、小田原『鈴廣』には見向きもしません。玉ネコは『紀文』と新潟産限定『焼き抜き蒲鉾』は舐がして遊んでいます。不届きな猫です。

竹輪。山ネコは『岡虎』一筋。それ以外の銘柄は舐がして遊びます。玉ネコはスーパーの特売用『日本水産特製』が大好き。味音痴丸出しです。

外郎には玉ネコは？？？？山ネコは懐かしそうにかじります。豆子郎なら、中の小豆を美味そうに食べています。



身についた嗜好なのかも知れませんが、現在埼玉に住んでいるので、一度彼らに『草加煎餅』を小さく割って与えたところ、飛び上がり逃げて行きました。玉ネコなら食べるかなあと考えていました。良く見れば『草加煎餅・激辛』となっていました。それ以来、彼らは『草加煎餅』の袋を見ただけでそそくさと逃げ出して行きます。

山口弁の抜け切らない家内の言葉で山ネコは理解していますが、初めてのころ玉ネコはキョトンとしていました。玉ネコが我家に慣れ始めた頃、彼らが食卓の上で遊んでいたのを家内が見つけ、『そこを降りんにやあいけんよ。』と言ったところ、飛び降りたのは山ネコだけで、玉ネコはポカン。

最近玉ネコも家内の山口弁を理解するようになりました。

『あつちに行かんニヤアね。』ニヤア  
『これ食べんニヤアね。』ニヤア  
『ん。』もしかしたら玉ネコも何とかして山口弁を喋ろうとしているのかも知れません。

知らぬ人から見れば、家内の山口弁

と毎日の“お釣り銭”の配金のサービ  
スを受け持ったのです。一般的には、  
そのような仕事は阿知須町にある銀行  
の支店なり、信用金庫なりがサービス  
するのではと思うところなのですが、  
最近はそのような手間ばかりかかって  
儲からない仕事は金融機関はやらない  
(正確にはやれない、そのような余裕  
はない)というのが実態でして、その  
部分を私共警備会社が“集配金サービ  
ス”として有料で、肩代りしている状  
況なのです。

さらに博事務局の応援もいただき、  
約40社のお客様を獲得できましたが、  
鳥栖からの現金配送、現地係員は福岡  
からの長期出張と私共のコストも予想  
以上にふくらみ、縮めてみれば結局  
“企業ボランティア”といったところ  
でしたが良い経験ができました。

会社業績への貢献という意味では今  
ひとつでしたが、プライベート面では  
大きな収穫がありました。といえます  
のは、夫婦で初めて山口県に足を踏み  
入れたということです。妻は東京育ち  
で、山口県は遥かに遠い場所でない

は『猫語』に思えるかもしれませぬ。  
いやはや。

家内と、いづれは山口に帰ろうと話  
していますが、その時まで我家の猫た  
ちが元気でいてくれるかどうか？

山ネコは、その時には12歳くらい。  
人間の年齢に換算すれば、60代半ば。  
(その頃、年金は更に遠のいてい  
るのかなあ?)

玉ネコは10歳くらい。人では50  
過ぎ。(景気が回復してリストラされ  
なければ良いけどね。)

故郷の山口で、彼らネコが優しい？  
山口弁を浴びながら余生を過ごせるよ  
うになるまで、私には東京でしなけれ  
ばならない仕事があった山積です。

『元氣出さんニヤア。』

『早う仕事に行かんニヤア。』

『お酒飲まんて帰らんニヤア。』

毎朝、女関先で山口弁？で見送って  
くれる我家の猫たちです。

もなく、結婚以来山口県を訪れる機会  
を持ち得ず今日に到っていました。私  
も、山口市で中学、高校を過ごしまし  
たが、両親がその後山口を離れたため、  
高校卒業後山口市を訪問したのは数回  
程度でしたので、今回は“さらら博”の  
お陰で夫婦で山口訪問のきっかけを作  
ることができ本当に幸いでした。

石見空港でレンタカーを借り、津和  
野、徳佐、山口市内観光で湯田温泉に  
1泊。翌日は“山口さらら博”を見  
学して秋吉台経由萩に入って1泊。最  
終日は萩の市内観光、萩焼の窯元を訪  
問して掘り出し物を購入でき上機嫌で  
東京へという短いながらも充実した小  
旅行を楽しみました。

女房は初めての山口にすっかり感  
激、車だと本当にスムーズに何処に  
も足が伸ばせ、かつ風物のおだやかな  
美しさが随所に見られ、一言でいえば  
「山口って本当に良い所なのね」とい  
うのが感想でした。

私の友人達もリタイア組が増え、夫  
婦共山口出身の場合、殆んど例外なく  
山口に戻って行きますが、その気持ち

## 「山口さらら博」の思い出

高橋 紀夫

もう2年前のこととなってしまっ  
たが、2001年7月14日～9月30日  
に「山口さらら博」が開催されました。  
この年は、全国で3つ(山口と北九州  
福島)の博覧会が開催される異常な年  
となりましたが、“山口さらら博”が  
最も成功裏に閉幕したことは未だ記憶  
に新しいところです。実は、私が在職  
する警備会社“エー・エス・エス”も  
微力ながら裏で“さらら博”を支援さ  
せていただきました。御案内のとおり、  
会場内には売店、飲食店等の現金で商  
売されるお店が多数出店され、会場内  
のにぎわいを盛り上げていました。

で、私共の会社で、その“お店”の  
売上金の集金、指定銀行口座への入金  
が女房にもようやく理解できたような  
山口旅行でした。(ただ、本人はやは  
り東京を離れたくないと言っておりま  
す)

私は、幸いにして現在の会社(エー・  
エス・エス)で今しばらく現役でやれそ  
うですので、精一杯頑張ってみたく思  
っています。従って、私がリタイヤした  
後どうするのか、これは“これからの  
課題”として又夫婦で話し合う時も来  
るのではと思っており、“山口市”が候  
補のひとつになればと期待しています。

※注「株式会社エー・エス・エス」は、2003年  
3月1日付で「株式会社アサヒセキュリテイ」へ  
と社名変更致しました。



高見沢 顕二郎 (東京都中野区)

自宅電話番号：03-3373-3772

出身地区名：湯田

地元出身校：県立山口高等学校(新制)

七夕会の更なる発展と拡大を期待します。

## 「七夕に想う」

田中 善作

(神奈川県川崎市)

私は大恐慌の1929年、山口市大内村の儉しい農家の六男として生まれました。世の中は不景気なだけではなく、段々と戦争色を深めて居りました。就学以来「欲しがりません、勝つ迄は」

が合言葉の、何か追立てられたと云うか、張りつめた殺伐とした時代の生立です。

そんな時代でしたが、七夕だけは例外で、今でも緑の笹竹や墨書きの願を込めた五色の短冊が、色鮮やかに目に浮かびます。夜の提燈の印象は一段と鮮烈。赤地に白丸の提燈の行列が、幾重にも重なり、暗い夜空に艶やかに浮上り、幻想的で詩情が漂って来ます。それは潤い豊かで、何故か郷愁をそそる、懐かしくも心安らぎ、和む風景です。

又、近在の農家では七夕を七日盆と呼んで、おはぎを供えて、御先祖を祀るお盆会の初日でもありました。そして家族全員でのお墓参りが欠かせない仕来り。勿論、それは私にもしっかりと染み込んで居ります。

そんな次第で、修学・就職のため郷里を離れて既に50年余になりますが、年々歳々山口の七夕は忘れられませんが、否、そのみか、子供や孫達にも本籍地・墓所の山口に馴れ親しんで欲しいと、2、3年に一度は松田屋旅館

穏やかな市民の姿であった。

然し段々回を重ね時がたつにつれ私は大きな不安と不満を感じるようになってきた。それはこれが「俺が故里か」「わが郷土防長か」という疑念と、誇らかに胸ふくらむ思い、明日の再出発に繋がるエネルギーが何処にも感じられないということである。山中は山高に繋がっていない。山高は山大とは全く異質であったという事は良いとしても、全ての都市が衰退、県勢は停滞、過疎と不況に苦しみ明日への展望が開けない現状をどう考えたら良いかという事であった。

20年以上も前になるが通産省の委嘱で工業立地指導に訪れたことがあるが、宇部空港に着いた時から終始何度も聞かされた言葉は毛利、岸、佐藤であった。県民の意識は過去に生きているというのが4人の指導員の感想であった。同じ頃長門市で講演したことがある。バブルが最盛期を過ぎた頃であるが、そこで述べた事は世界経済は国境を越えて広がる、何時までも中央を見て橋を強請る、道路を喜ぶ時代は終

を奮発。3世代打揃って、心ゆくまで七夕を楽しみ、御先祖のお祀りを致します。松田屋では、「街道をゆく」で司馬遼太郎さんが感嘆された外郎の素朴で風雅な味やデザート「いとこ煮」に込められた郷土の趣向が賞味出来るし、維新の史跡に佇み、歴史を身近かに実感出来て何よりです。

何しろ、七夕はお盆とも重なり、色々な想出や郷愁をそそられて、懐かしい限りです。照明が落とされて、ほの赤く提燈に写出された街並をそぞろ歩けば、山中・山高の昔が甦ります。終戦の前日海軍工廠で、惜しくもうら若くして逝ったクラスメート(16名)の顔は何時も涙で滲みます。

七夕は遠くはなれた郷里と青春の昔へと心を繋ぐ掛替のない掛橋です。



鶴岡 信一 (東京都杉並区)

自宅電話番号：03-3220-1886

出身地区名：長門市

地元出身校：山口中学校、  
山口高等学校

昭和17年に山口を離れてから既に60年、学徒出陣という大東亜戦争への参加、戦後復興への企業戦士など云い知れない苦闘の上逝く自分の生活、人生設計に目途をつけたのは戦後20年経ってからである。その頃から旧制山中、山高の同窓、同期会に顔を出すようになり、2年に1度位山口を訪れるようになったが、私を牽きつけたものは山口市の変化のなさであった。鳳凰山と双子山の佇まいは変わらない、後河原も立派に残っている、山中、山高の跡地もそれ成りに確認出来る。変わったものといえば街並に異様にふつきり合いな幹線道路と歴史の流れを忘れさせる

わる、世界経済、圏経済の中でどう生きるかを探る時代が来るということ、提案として韓国都市と水産加工面で提携する自主外交の展開、大津高校のラグビーを学校、校友会、市民で徹底的に支援して市の名声と活力を高めること。関連して依山にラグビーのメッカ第二の菅平を作ったかどうかという事であった。

実現したのはラグビー場だけであり、山大に少し新しい動きが見られること以外依然として旧態から脱し得ていないように見られる。キララ博は収支面では成功したようだが各都市、地域の新しい息吹きは余り感じられなかった。過去の遺産は時代が変われば負の遺産にもなる。先の戦争の総括の中で陸軍長州閥の流した弊害が論じられる時代になっている。長く自民党が選挙区を独占していたのは山口と島根であり、その何れもが現在活力を失いつつ停滞していることも事実である。

今激動の大転換期にある。これを取り切つて国力を成長軌道に乗せることに成功するかどうか、まだ不安はある

が成功しなければ戦後我々が築いた（と自負している）日本は消えてしまふと云わざるを得ない。過去に学ぶのは維新の回転を押し進めた吉田松陰以下の若者のエネルギーだけで良いのではないか。明治の輝かしい栄光の歴史は終戦と共に失なわれているのである。このことを改めて認識し自覚して自らの生きる道、繁栄の方策を市民・県民が模索することが一番大切なことであろう。

以上私が7年半お世話になった山口市へのお礼の気持ちから敢えて提言する次第である。



一、魯迅記念館  
その男は、満面に笑みを湛えながら、さながら旧知の友のような自然さで近づいて来た。「ようこそ、魯迅記念館にいらっしやいました。この記念館は新設されたもので前の建物の一〇倍の規模になりました。初めての方には広すぎて内部がよくわからないと思います。私は日本語が話せますので、お役に立てますよ」と言う。要はガイドに雇わないかと言うことである。別にこの記念館の関係者ではない、自分の才能を換金する現代上海市民の生業のひとつと見た。閑日の遊覧なれば渡りに舟と、少し鷹揚にうなづく。



「紅頭繩(ホンハツツウ)」  
寺下英明

館内は広々としていて、人影は殆どない。言うところの絶好の見学環境である。男のガイドも玄人はだして要領が良い。すでに経験を重ねてのベテランの域にある。だが、私とて、魯迅先生には思い入れがある。何しろ魯迅先生が亡くなった一九三六年が、私の生年であるからにして、なかなか煩いのである。やがて二人は、魯迅談義に没入することになった。さながら旧知のように。  
ふと、立ち止まって男が訝しげな顔をした。「先生は一体何者ですか、日本人ですよ、魯迅先生に詳しい学者ですか、文士ですか、お役人や企業家でもなし、私には良くわかりません。教えて下さい」と尋ねる。「いや、ただの観光客ですよ」と答える他はない。  
昼時にいたり、館内の食堂に御案内、簡単な点茶となる。後で土産物売場に案内し、魯迅作『孔乙己』ゆかりの咸亨酒店の紹興銘酒を紹介するとおっしゃる。「試飲も出来ますよ」と、昼時なのに何だかあやしい雰囲気となる。  
その時、小姐シヤウヂョウが一人男に近づいて、袖を引き、身を引きながら囁いた。男

は椅子から立ち上がった席を離れ、今度は声を潜めての長話となった。やがて、席に戻った男は、私に一礼し、声を改めて言った。「まことに失礼しました、先生は浦東の名士、紅頭繩の旦那ではありませんか、最初から何か不思議な印象でしたが、そのとおりでした」と言う。「小姐が教えてくれました」と言うことの成り行きは、次のようなお話であった。

ある日、少女は黄浦江をわたり上海の新興区域浦東にいる友達を訪ねた。その友達から、浦東の五ツ星の大酒店に長期滞在している「紅頭繩」のことを聞いた。何をする人か全々判らないが、よく部屋に籠って書き物をしている様子、そして、時々政府からの指し回しの汽車「紅旗」がお迎えにくるので、とてもえらい人であることに間違いない。日本人らしいが、永くいるくせに中国語は殆ど知らなくて、英語で話している。浦東で働いている仲間の、大酒店の食堂やクラブの人には、とても気さくで優しい紳士で、いつも頭に巻いているバンダナの模様がその

時々の気分に合わせて変わるの有名なである。「あの人に変なことをすると後で大変なことになりますよ」といった情報と注意であったとの御報告である。「で、そもそも先生は何者ですか」とまた煩いことになった。また、おおどかに「いや、まあ」と答える他ない。

二、紅頭繩  
いかにも、私には、アジアでは「紅頭繩」テリイと言う字名あざながある。この紅頭繩と言う言葉には、漢字文化圏の人々には、とりわけ独特のイメージがある。そのため、私は、望外の恵沢を頂くことが多い。魯迅記念館の男の、私への態度の変様、以後の親身の解説、帰りの諸手配の心地好さも、またそのひとつである。

中国には永い間人々によく膾炙された「白毛女」と言う民話がある。  
昔、寒村に貧しい父親と美しい少女が住んでいた。少女が娘になった時、貧乏な父親はせめてのお祝いとして町に出かけて赤い紐を買い、これを編んで髪を結ぶ紐にして、娘に贈った。娘

の黒く長い髪に良く似合って、娘もとても気に入っていた。  
やがて、娘に恋人が出来る頃、その美しさに横恋慕する地主が登場する。よくあるお話である。地主は、策を弄する。まず、青年に、君はこの村一番の人材であり、俊英である。資金を援助するから都に上って科擧の試験を受けたら如何かと甘言し、都へ送り出す。如何に優秀と言えど、地方の村の一青年、科擧など何十年かかっても合格する筈もないとの読みである。娘は涙ながらに恋人の壮途を見送った。さて次は父親対策である。地主は父親に、余分な金を貸し、酒を勧め、博打に誘い、また金を積み貸す。そして、急に返済を求め、返さねば娘を差し出せと迫ったのである。  
娘は、恋人への貞節と、父親への孝心に悩み、ついに村を出て山中に隠れることを決心する。山中に持ち込んだ食料はたちまち無くなり、木の皮、野草を食する日々となり、やがて、長く美しい黒髪はあわれ白髪と化した。「白毛女」の現出である。

都に上った青年は、娘の心を励みとし、脇目もふらず懸命な研鑽を重ね、なんと数年で科挙に合格し、自分で望んでの故郷の地の知事として帰郷赴任することになった。だが、帰って見ればこれ如何に、恋人はいなくなり、娘の父親は廃人同然の有様、探索するうちに地主の悪行が露見、これに知事として厳しい処分をしたものの、恋人は依然行方不明。そこで、村人総出の山捜しとなる。そしてついに、白髪になった娘が見つけた。その時も勿論白い髪には鮮やかな赤い紐が結ばれていた。やがて村に帰った娘は、青年と結ばれ、白い髪も黒髪に戻り、めでたしめでたし、と言ってお話である。

この民話は、長い間、中国の各地で、時代や土地に応じたバージョンに換話されつつ、人々の心をとらえ続け、とりわけ、娘の頭に巻かれた赤い紐のイメージは、全中国、やがてはアジア一帯に広まっていった。この赤い紐が「紅頭繩」と言う訳である。

時は移り、毛沢東の指導する新中国の時代、一九四四年、当話御縁の魯迅

芸術学院の集団制作による新歌劇「白毛女」が誕生する。中国革命所縁の延安で初演、毛沢東主席の肝煎りで、全国で公演され、やがて映画化、バレエ化され、中国芸能芸術の精華として内外に喧伝されることとなった。ここでは、恋人たちは、貧農の娘と人民解放軍八路軍兵士の婚約者として描かれる。

「ですから、先生にとって、如何なる意味と拘りがあるのか知りませんが、中国人は誰でも、その赤いバンダナを見ると、何か心の中に温かいものを感じ、それを巻いている先生に、ふと好ましい感情を持つのですよ」と、これは上海での公務のカウンターパートナー、上海政府高官の言葉である。と言う訳で、この地ではごく自然に、誰もが私を「紅頭繩」と呼ぶのである。アジアの遊民「紅頭繩」テリイもまた、これを有り難く受け入れている。

三、仕事

付言一節の御披露を申し上げます。私は一九三六年、山口市堂の前町の出生

(本籍地)である。市中の大殿学区の大殿小学校、大殿中学校、山口高校から山口大学経済学部へ進んだ、大学では柴田敬経済学博士の演習室生。卒業後は縁あって山口県信用保証協会、全国信用保証協会連合会と、一貫して、日本独自の開発事業である信用保証制度の確立完成と国際普及に挺身し、一九九六年、連合会審議役を勤め上げ六〇歳で定年退職をした。

退職時に永年勤務の御恩報謝の意を込め「信用保証論」(大平社、六二〇頁)を発刊し、各位に進呈した。この一書が御縁になり、外務省・国際協力事業団の諸国経済政策の助言指導をする国際経済コンサルタントとしてベトナムに派遣され、以来、毎年一国のペーイスで、諸国に長期滞在しての調査指導の年々を送っている。なかなか厳しい知的かつ肉体労働であるが、心中に天地人から頂いての恩沢に深い感謝の念がある。

少年時代「万巻の書を読み、千里に旅する」ことを希求したが、長じて(一)信用保証、(二)青年国際交流、

(三)仏教経済、の三つを半生の仕事として自らに課し、五大陸百都市を越える地に足跡を残してきた。勿論、未だ、何も成し遂げることなく、ただ、未完の日々を好日とするばかりである。

現役引退前後から最近における、アジア諸国での活動状況を略記し、恥ずかしげもなく、私の仕事についてのおよその自己紹介と近況報告を申し上げます。また、万端につき、今後ともに、諸兄弟の御支援と御指導をお願いするところである。

一九九〇年

- アジア信用補完制度連合(ACSIC)の結成と国際会議開催および同トレーニングプログラムの拡充
- 一九九三年一月～二月
- ロシア政府中小企業政策セミナー
- 構成員(中小企業事業団)
- 一九九四年九月
- 国際中小企業会議(ISBC)ジャパンカルタ会議・信用保証部会講師
- 一九九四年一月～二月

ガンバレカンボジアプロジェクト創設委員

- 一九九六年五月～六月
- 文化交流国際親善訪モンゴル団局長(仏教伝道協会・仏教聖典贈呈)
- 一九九九年五月
- 国際文化交流ブータン王国訪問団(仏教伝道協会・仏教聖典贈呈)
- 一九九九年一月～二月
- 総務庁国際青年育成交流タイ王国派遣団団長(タイ王国七二歳慶祝)
- 二〇〇〇年一月
- ネパール王国国際仏教経営フォーラム団長(ルンビニ・アッピール)
- 二〇〇二年九月～一〇月
- 内閣府日本中国青年親善交流中国派遣団団長(日中友好三〇周年)
- (国際経済コンサルタント)
- 一九九九年六月～八月
- ベトナム中小企業振興計画調査・国際協力事業団(JICA)専門員
- 二〇〇〇年三月～四月
- タイ王国信用保証制度改革調査・

日本貿易振興会(JETRO)専門員

- 二〇〇〇年一月～二〇〇一年三月
- スリランカ工業振興調査・国際協力事業団(JICA)専門員
- 二〇〇一年五月～一〇月
- 上海市小企業貿易発展中心機能強化策定調査・海外貿易開発協会(JODC)専門員
- 二〇〇三年四月～二〇〇四年二月
- 中国中小企業金融制度調査・国際協力事業団(JICA)専門員



## 「七夕会に涼む！」

富田捷治 (千葉県八街市)

自宅電話番号：043-445-6660

勤務先：(株)千葉産直サービス

勤務先電話番号：043-254-7791

出身地区名：嘉川

地元出身校：嘉川小学校

皆さん、こんにちは！郷土を離れてもう30年強、「すっかり関東人」と思われますよね。故郷を離れて定住している人は皆さん「鮭の回帰性」に似ていますね。何時までも心が定住するのは故郷なのですね。

どんな名士も、凡人も皆、心は山口にあるようですね。遠く定着して感じる思いです。ちよっと旅路に東京に見える思いと、定着出来なかった故郷へのあこがれは大きな段差があります。遠地に住む私共は、故郷山口のお役に立てる事柄があったら、「観光の宣伝も、産物の宣伝も出来ることは協力してあげたい」。

そんな私に山中時代以来の畏友S氏から、七夕会というのが発足するが参加しませんかとお誘いを受けた。あまり積極的に動ける年ではないこと、山口と七夕まつりとのつながりが今一つ、などと躊躇していたが、帰省のチャンスを捕え妹の主人の意見を聞いてみたところ、その趣旨をみるかぎりそう負担になるようなことでもないし、時に山口を想い起こすすがに丁度良いのではとの声であった。

帰ってみるといろいろ思い出すこともあるもので一昔前の話になるが、「七夕ちようちんまつり」について淡かった記憶がよみがえって、躊躇を打ち消してしまう作用もしてくれた。それは昭和47年頃のような出来事である。

偶々所用での帰郷が祭当日の8月7日になったことがあった。当方は全く意識していなかったが、山口に到着し妹の婚家系米の中村家に着くなり、皆に急かされて衣装も解かずに訳も判らず後について走っていた。間もなく皆の好意がわかる時が来た。それは最高

このような会を通して、具体的な故郷への貢献が出来ると思います。具体的な懸案を持って、いろいろな出会いを通じて、働きかけを強くして、故郷に住む方々に「お役に立てるといいなあ」と思います。

<http://www.e-tabemononet>

## 西見宏行 (神奈川県横浜市)

自宅電話番号：045-561-6801

e-mail：DZK06160@nifty.ne.jp

出身地区名：白石

地元出身校：旧制山口中学、旧制山口高校

山口には4、5年おきに帰省していますが、山口七夕会ができて、毎年山口弁が聞けるようになりました。白石

に盛り上がった時刻の「山口七夕ちようちんまつり」そのものであった。その時の山笠のそびえ立ったような鮮やかな明るさと衛星を搭載して打ち上げられるロケットの映像とが妙にダブって見えた。

今ではあたり前のようにCS、BSなどと云っているが、その頃は未だ自前の衛星はなくアメリカのNASAから借用して実験を重ね、一生懸命技術の取得をしていた時代であった。アメリカから衛星を借りて実験するには時差はどうしようもなく、夜と昼がひっくりかえってしまうので疲労も蓄積する。直前までそのような仕事をしていての帰郷で疲れが残っていたための幻想だったかもしれない。

いずれにしても毎年のこの行事は山口に活気呼んで人気があるようである。21世紀から新山笠の登場があったとか。妹に写真を添えた話を聞いてみたが、実物に及ぶものはない。何とか早い時期に最近の盛況を見たいものである。

月日の経つのは早いもので仲間に入

では満98才の母が元気にしております。

## 「七夕会への入会」

原田喜久男 (東京都小金井市)

自宅電話番号：042-383-8571

e-mail：ZAC00164@nifty.ne.jp

出身地区名：嘉川江崎

地元出身校：山口県立山口中学校

師走を迎えて、もう満77年も生きて来たかといささか感慨にふけつていたところ「山口七夕会」事務局から創立5年の記念誌に原稿をというお便りをいただいた。

山口は19の歳まで私を育てくれた故郷であり、今も山中時代などの友人も多い。また妹2人の婚家で夫婦共々健在だし、祖先の墓所もあることとして遠くに暮らしていても想いは深い。しかしながら、もっととは思いつつも帰省の回数は意外に少ない。

れて貰ってからもう5年、ファイルして愛読している「やまぐち」も結構な厚さになった。その間あまりお役に立っていないので何とかと思案の末が、入会時の回想になってしまった。終わりに臨み事務局の方々の日頃の御苦労への感謝と山口七夕会並びに山口市の益々の隆盛を祈念しながら筆をおきます。

## 「ブロードバンドで新ビジネス」

原田俊明 (埼玉県新座市)



勤務先：株式会社トレソーラ (TBS在籍)

出身地区名：湯田温泉

地元出身校：県立山口高校 (昭和38年卒)

今やブロードバンドという言葉は、一般的になってきており、今年前半にもユーザーの数は、契約世帯ベースで1千万件を越えようとしています。小

生が社長をしている株式会社トレソラーは、TBS、フジテレビ、テレビ朝日の在京民放3局が中心となって、テレビのコンテンツ（番組や関連する作品）や映画、アニメなどのエンターテインメント系の作品をブロードバンドを通じて有料でユーザーに楽しんでもらおう、ということを目的に設立された、云わばベンチャー企業です。

七夕会のメンバーの皆様も、パソコンでのインターネットやIP電話などのために既にブロードバンドのユーザーになられている方が多いと思います。アナログ技術の進歩でこれまでのアナログ技術から、放送も通信も一気にデジタル技術に取って代わる時代を迎えています。今年の12月から首都圏、大阪、名古屋の大都市圏で地上波デジタル放送が開始され、2006年からそれ以外の全国各地で一斉にデジタル放送が始まります。更に、2011年には、現在のアナログ地上波放送は、すべてなくなるといのが、総務省の方針となっております。視聴者である国民だけでなく、放送業界にとっても、

これまで経験した事がない大変革の時代を迎えているのです。云うまでもなく、今やテレビは、各家庭でなくてはならない生活必需品であり、国の内外の動きを知ったり、同時に安上がりな娯楽のための世間に向けて開かれている窓のようなものです。そのテレビが、これから10年足らずの間にその送信方式が大きく変化しようとしているのです。

当然、方式が変わればテレビ自体が持つ機能も大きく変わっていきます。家に居ながらにして、過去の名作や、エポックメイキングなニュースなどが、思いのままに見れる時代がやってきます。そういう時代の先駆けとして、見たいものを見れる時に見る。これがビデオ・オン・デマンドすなわち、われわれ株式会社トレソラーが目指している究極の姿です。とは云え、まだその時代は、少し先の話です。ビデオがVHSからDVDに変わりつつあるように、世の中の変化は、一気にはなかなか来ません。

しかし10年前には、少数派だった携

帯電話は、今では、持っているのが当たり前です。パソコンなども、同じ事が云えると思います。マーケティングの世界でよく云われる事ですが、商品の普及は、ある臨界点を越えると弾みがついて一気に普及する特徴があります。云わゆるクリティカル・マスと云うやつで、ブロードバンドは今年その一番最初の臨界点である1千万を越えて行きます。おそらく、3年後位には、携帯電話に近いような常識的な必需品となっていると思われます。われわれ株式会社トレソラーは、そういうブロードバンドの世界のバイオニアとなり同時に一つのサクセス・ストーリーを作るべくがんばっております。



原野和夫 (東京都世田谷区)

自宅電話番号：03-3324-9622

みなさまのお志のおかげで七夕会もようやく形をなしてきたと思います。しかし年1回の会合をしているだけで内容的にはいま一つ、とみなさまもお思いではないでしょうか。

山口を愛しエールを送りたい気持ちを共有している私たちの会をいま一歩充実し、かつ楽しいものにするために、いい知恵はありませんか。とにかく楽しい会にしたいと思いま

福井広海 (東京都北区)

自宅電話番号：03-5560-0636

勤務先：(福)白秋会

勤務先電話番号：03-5622-1165

出身地区名：秋穂二島

地元出身校：山口高校

山口七夕会創立5年おめでとうございます。私は東京にいて、故里山口のことは一日たりとも忘れたことはない。それは県紙山口新聞を毎日愛読しているためもあり、又故里を離れていると地元情報満載の「市報やまぐち」『ふらぎ』は限りなくなつたかしく、嬉しく、楽しみの広報誌のお陰でもある。かねてより徳山市（徳友会）、光市（光友会）等の出身者は早くからその集いとよろこびを享受しているのをごぼしたものである。今は関係各位の御努力で、山口七夕会が出来て年一度の総会が待たれてならない。当日は市長をはじめ職員の皆さんが、山口の香りをひっさげておいでになり、会を盛り

あげて下さること、同時に東京に住むあの人、この人との再会のよろこびは山口七夕会ならではの本会益々の発展を願う者のひとりである。

福嶋雅人 (神奈川県川崎市)

勤務先：(株)エフエム山口東京支社

勤務先電話番号：03-3221-0280

出身地区名：糸米

地元出身校：山口県立山口高等学校

平成11年山口市が市制施行70周年という節目にあたり設立された山口七夕会、5周年を迎えると聞き、あらためて月日の過ぎる早さに驚かされます。あれは、約5年前の6月でした。11年振りの東京支社への転勤が決まり、仲間が山口市内のある居酒屋で送別会を催してくれた時でした。会が盛り上がった頃、そこにたまたま客として居

合わせた旧知の山口市の幹部の方に、今度東京で七夕会という会をつくることになり、今その設立の準備をしているところだが、東京に行くのならば発起人の一員になってくれないか、と突然依頼を受けたのです。酒の酔いもあって軽い調子で引き受けてしまった私は、上京後すぐに開かれた発起人会に出席し、まずとにかく会員を集めなくてはということ、早速山口市出身の友人、先輩、後輩達に片っぱしから声をかけていったのです。そして翌年の2月6日、日本橋三越本店不二の間での設立総会で、山口七夕会は正式にスタートしました。

あれから丸4年、仕事でも暮らしても常に猛スピードで変化し続ける環境の中で、故郷山口市と触れあえる、年一回の総会や定期的に送られてくる市報は、私にひと時のオアシスをもたらしてくれる、貴重な瞬間です。幹事としてまだまだ力足らずで、十分に役割を果たしているか、反省すべきことも多くありますが、郷土山口市を愛し、その発展を願う一人として、山口七夕



「七夕会  
五周年にあたり」  
藤田 三保子

5周年、誠におめでとございます。七夕会の出来たことを伺いました折には、今までこういう会がなかったという事に寧ろ驚きを覚え、大変嬉しく思ったことございました。

毎日の厳しい都会生活の中、七夕会などで同郷の方々が頑張っておられるのを聞きましては励みとさせて頂きまして、故郷の訛に心が潤ったり致します。また今、山口では何が起きているのかといった情報にも少しは詳しくなり、帰郷しました折には、あまり聲掛けにならず胸を撫で下ろしたこともございました。

また、7年前から始めました油絵も、

会が会員の皆さんのより強いコミュニケーションの場となるよう、今後もサポートしていきたいと思っております。

藤井 朋憲

勤務先：新川電機株式会社  
勤務先電話番号：03-3263-4417  
出身地区名：阿武郡阿東町  
地元出身校：山口県立山口高等学校

大学を卒業し東京に住み始めて早17年が経ちました。当初は都会にコンプレックスがあったせい、逆にその気持が郷里から自分自身を遠ざけていたような気がします。最近ようやく冷静な視点で郷里を見つめることが出来、いやに心地よく感じられます。実は最近郷里の先輩方に偶然ですがお会いする機会が多く、より一層人生を楽しく過ごさせて頂いています。ある共通のビジネスパートナーを通じて出

お蔭様で、01年、02年と宇部で個展を開催する事が出来、有り難い事だと感謝申し上げます。また、3年前から始めました俳句に絵を画き俳画と致しまして発表しておりますが、私が、湯田や防府に住んでおりました関係から、お手に入れて楽しんで下さる方も広がり、七夕会などで私共の現在の活動をお聞きになり気に留めて下さる様で、重ねて御礼申し上げます。

また、山口市内に100人くらい収容のミニ劇場が出来れば、山口県下の様々なプロ、アマを問わない劇団等の良き発表、修練の場ともなり、一方では、山口市民の文化意識、教養を高めていくことと存じます。七夕会のお力添えで、ぜひ山口市内に、コンサートも出来るミニ劇場の御発想を戴けないものかとお願ひ申し上げる次第でございます。

最後に、七夕会が、これからも政治経済、文化等に関する人達とのよき交流の場であるようお祈りしてお祝いの言葉とさせていただきます。

平成15年3月3日

つたある大企業法務部にお勤めの大先輩、取引させて頂いているある一流国立大学教授であられる方、米国シカゴ駐在時代に現地でお会いしたある大手運送会社にお勤めの方、ある都内有名ホテルに御勤務の面倒見の良い方、等々。皆様が東京で頑張っておられる姿に接し、自分もまだまだ頑張らねばと思う反面、「郷里は遠くにありて思うもの」を実感するこの頃です。自分は海外ビジネスに従事していますが、今後も山口産、東京発のグローバルな仕事に邁進し頑張っていきたいと思っております。



藤永 忠 (東京都港区)

自宅電話番号：03-3447-1759  
勤務先：(元)神戸製鋼  
出身地区名：大内  
地元出身校：山口中学、(旧)山口高校

「ふるさとは、遠きにありて、想ふもの。私も山口をはなれて、約50有余年になりますが、齢いくつになってもいつも想い出すのは、心の故郷、山口です。四季折々に風吹けば想い出し、雨降れば又想い出します。

吹雪に霞む鳳凰山、小雨に時雨ゆく双子山、青春を乱舞せし深き絆の地(旧、山高)、雪の香山園、五重の塔、亀山の緑、一の坂川の蟹等々、数え上げれば、きりがありません。

山口こそは、私を生み、育み育ててくれた、母なる大地、心の故郷と考えっております。

幸い山口市の御企画で、毎年七夕会が、開催されなつかしい級友や、山口

出身の方々と、お会い出来、懇談出来ます事は、嬉しき限りであります。只、最近、時代の変遷と共に、若き方々が段々愛郷心がうすくなり、且山口市自体、一寸元気がなくなつたと感じる事があります。四周、山に囲まれ、企業の進出もなく(進出出来ない)、大内氏以来の化石の様な街で発展性少なく、市の財政運営も大変だとは思いますが、徒らに、他を真似て、奇を衒う必要はなく、いつ迄も伝統と文化の香り高き、落ち着いた街であつて欲しいものです。七夕祭も早や5年になる由、今後の益々の発展と、母なる大地、心の故郷である山口市の益々の隆盛を祈るや、切であります。

「山口七夕会の今後について」

益本 圭太郎

山口七夕会も5周年を迎えることとなり、お世話いただいている山口市の職員の方々に感謝申し上げますとともに御礼申し上げます。5周年を機に、七夕会のあり方、今後について考えてみたいと思います。私は18歳まで山口市で過ごし山口市に対しては愛着、思い入れもあります。そして七夕会で山口市の現状やかつて住んだことのある人々と思ひ出を語り合う場を提供して下さつて感謝してありますが、これでよいのか?とも思っています。

七夕会は、世田谷区民祭で七夕ちょうちんの飾り付けの応援をきっかけに、始まつたと聞いていますが、その

精神が忘れ去られているようにも思います。改めて、規約を読んでみますと、目的としての「会員相互の親睦」は、山口市の御努力により十分図られていると思ひますが、山口市との「情報交換」、「発展に寄与する」では、七夕会の活動は不十分ではないかと思ひます。この点は、山口市の方でも会員に何を求めているのか分からない点があることも原因しています。

そこで、七夕会の目的をどのように考えればよいのでしょうか? 山口市が事務局をしていたく七夕会の第一の目的は、山口市を多くの人に知ってもらふ、山口を訪れてもらうことではないでしょうか。そのように考えれば、今回、会員の範囲を家族まで拡大していただいたようですが、さらに広範囲に、会員は山口市の出身者に限ることなく山口市に興味を持っている人にも門戸を開放すべきだと思います。現在、規約には、「郷土山口市を愛しその発展を願う個人」とありますが、「郷土」に限定する必要はないと思ひます。そして、山口市出身でない会員には、ま

でもできます。会員に10枚程度の配布を依頼することもできたのではないのでしょうか。

さらに、四半期に1度送つていただいている山口市報についてもインターネットで見ることが出来ますので、希望者のみとし経費の節減を図られたらいかがでしょうか。七夕会のホームページも作つていただきましたが、情報の発信もありませんし、掲示板の利用もないようです。年1回の総会だけでなく、経費のかからない方法で市から頻繁に情報を発信し、会員と意見交換をすることが必要ではないかと思ひます。

以上、思ひつくままに述べましたが、七夕会及び山口市の発展をお祈りします。

「私の故郷」

宮崎 隆晴 (東京都太田区)

自宅電話番号 : 03-3751-9137  
勤務先 : 東光電気工事株式会社  
勤務先電話番号 : 03-3211-5741  
地元出身校 : 山大附属小・中学校、山口高等学校

私は東京、池袋に生まれ戦争で焼け出されて、湯田の矢原の藁葺き農家に疎開しました。その農家は、湯田駅前より榎野川に懸かる木と土の橋を渡つて、すぐ右に曲がり、大きな木々のトンネルを抜けた右側にあり、そこで幼稚園に通うまで、近くの小さな川で砂泥鰌や鯰を捕えたり、水面に接している石橋を必死で潜り抜けて遊んで過ごしました。

(当時、木々のトンネルは昼でも薄暗くて怖かったこと、いつのまにか泳げるようになっていたことを覚えていま

後日、そこを訪ねたら幅の狭い石橋



とあまりにも小さな川で驚いた記憶があります。又、農家の裏の榎野川の竹藪は源氏螢の螢合戦で有名になった場所になっていました。1、2年生のころは教科書がなくて毎日遊び暮らしていた記憶があり、その後も続いて現在にたっています。又、3年生ごろ、後部に木炭の焚き釜を載せて煙を吐くバスの見てびっくりし、真新しいボンネットバスを待つて乗ったこと。学校の裏山の亀山公園にサビエル記念教会ができたこと。

夏休みの七夕祭りは大きな楽しみで、中市の映画館あたりより始まり、山陰堂、八木百貨店、日本写真館、友広書店、松原眼鏡店、杉本スポーツ店、金龍館、あたりまで蠟燭を燈した提灯を、大きな盃宗竹に沢山ぶら下げた七夕飾りのアーチの下の夜店を冷やかしたり、風に煽られて燃え落ちる提灯から逃げたことが懐かしく思い出します。(米屋町・早間田の交差点・道場門前の商店街アーケードになり大分趣が変わりました)

「平子氏で繋がる山口市と横浜市」

吉富和彦 (神奈川県横浜市)

自宅電話番号：045-761-3092

e-mail：kazu-yoshitomi@kit.hi-ho.ne.jp

出身地区名：水の上

地元出身校：(旧)山口中学校、山口高等学校

私は昭和40年以來、横浜市磯子区、南区及び中区の一部(昔の久良岐郡)を支配した平子氏の一族が、鎌倉時代に地頭となって山口市仁保に下向し、周防平子氏(後仁保氏、三浦氏)となり、現在もその後裔が東京におられることを知り驚いている。

平子氏は平家一派の三浦一族といわれ、平安末期から久良岐郡を支配し、300年以上にわたりその命脈を保った武士で、横浜市磯子区の真照寺を中興して本拠とし、南区の古刹宝生寺の開基となった。

源頼朝が建久4年(1193)に富

この様に山口時代の思い出を今も鮮明な記憶として心を和ましてくれるのも「山口七夕会」のような会に参加させていただいているからこそと考えています。今後でもできる限り参加していきたいと思っています。

山本和生 (東京都小平市)

自宅電話番号：042-345-1159

e-mail：kazu-yamamoto@mgc.biglobe.ne.jp

勤務先：帝人化成株式会社

勤務先電話番号：03-3506-4709

出身地区名：大歳

地元出身校：大歳小学校、鴻南中学校、山口高等学校

山口七夕会も発足して5年というところでいささか感慨深いものがある。

山口市の方から山口市出身者その他山口市に縁のある方々の集まりとして本会を作りたいというお話があったとき、躊躇なくお手伝いしたいと思った

士野で巻狩りを行った折、曾我兄弟のあだ討ち事件に遭遇し、平子平右馬允有長は真つ先に曾我十郎と切り結び、傷を負ったことが、吾妻鏡にみられる。有長はこの不覚を恥じ、真照寺に毘沙門天木像を彫らしたという。また、頼朝の2度にわたる上洛の行列にも、有長や、平子一族の名が見られる。

山口市仁保にある源久寺は、周防平子氏の元祖重経が建久8年(1197)に仁保荘に下向後、頼朝の死を弔うために建てた寺で、800年の歴史をもつ古刹である。

周防平子氏は、大内氏の家臣となり、11代重頼のとき、在名により、仁保氏と改名した。14代弘有は、応仁の乱で奮戦した武将で、源久寺には雪舟筆ともいわれる肖像画がある。

20代隆在のとき、大内氏が滅亡し、毛利氏への政権交代という大転換があり、仁保氏は両氏の狭間で苦難の時期に直面した。隆在の時代から仁保氏は毛利氏の家臣となった。隆在には男子がなく、吉川元春の次男元棟が養子となって21代を継ぎ、さらに毛利輝元の

のは、ただ山口市が懐かしいというだけではなく、山口市が自慢できる郷里だからである。

東京に住むようになって足掛け30年になるが、その間に多くの方から出身地を聞かれていつも誇り高く山口市だと答えてきた。豊かな歴史と美しい自然がある山口市は、誰に対しても自慢ができるふるさとである。

しょっちゅう山口市に帰っているが、東京にいても山口七夕会の方々といつも行き来できることは何よりも楽しいことである。

これからもたくさんの方に本会に入会してもらい、本会の活動をさらに充実していくために微力を尽すつもりである。会員の皆様のいっそうの御協力もお願いしたい。

籠臣神田惣四郎が養子入りして元忠と称し、22代を継いだ。このため、元棟は姓を繁澤と称し、後元氏と改名して阿川毛利氏の元祖となった。

元忠は豊臣秀吉の島津征伐に輝元に従い出陣して戦功を挙げ、安芸(今の広島市)の仁保嶋城主や、山口亀山の城番を命ぜられるなど、1万6600石余りを給せられた。元忠のとき、先祖に因み姓を仁保氏から三浦氏と改名し、周防三浦氏の全盛時代を築いた。関ヶ原役後、毛利氏の防長37万石、萩城への転封に伴い、三浦氏の知行も24代元精のとき、徳地817石に減給され、後萩に移住した。

こうして周防三浦氏は、元祖平子重経から20代仁保隆在まで、ほぼ370年間仁保に土着してきた。21代元氏、22代元忠と一時居を各地に移したが、24代元精から約270年間は萩に定住し、35代精一から現在に至るまで、東京に住んできたのである。

平子氏はこのほか、上杉氏の家臣として活躍した新潟県小千谷市、上越市、山形県長井市や福島県いわき市などに

もその後裔が移り、歴史を残している。本年10月中旬から11月下旬にかけて、横浜市歴史博物館において、平子氏に関する特別企画展が開催されることになり、横浜市、山口市など関連地域から資料や文化財を集めて展示する準備が進められている。とくに山口市には、源久寺の平子重経の木造坐像(重要文化財)をはじめ多くの貴重な文化財があるほか、219点に及ぶ三浦文書など、貴重な資料があり、期待されている。

一方、横浜市磯子区でも、この機会に区民有志が磯子区と合同で「全国平子氏サミット・シンポジウム」を開催しようとして、現在準備が進められている。平子氏が目立たない900年の歴史を掘り起こされて、各関係者の注目を浴びることを期待し、これを機に、山口市と横浜市磯子区とが親密な関係に発展することを、心から願うものである。

## 七夕会会則

(名称)

第1条 本会は、山口七夕会と称する。

(目的)

第2条 本会の目的は、次のとおりとする。

- (1) 会員相互の親睦を図り、教養を高める。
- (2) 郷土山口市との連絡を密にし、情報交換を行う。
- (3) 郷土山口市の発展に寄与する。
- (4) 上記各号に付帯する諸活動を行う。

(会員)

第3条 本会の会員は、郷土山口市を愛その発展を願う個人で次条に定める入会手続を経た者とする。

(入会)

第4条 本会に入会しようとする者は、入会申込書(様式第1号)に所定の事項を記載のうえ、これを本会に提出して入会の申し込みを行う。

(定時会員総会)

第5条 本会は、毎年1回原則として8月に定時会員総会を開催する。

2 前項に定める必要がある場合は、随時に臨時会員総会を開催することができる。

3 会員総会は、会長が招集し議長となる。会長に事故ある場合は、副会長がこれに当たる。

4 会員総会の決議は、出席会員の過半数を

もって決する。

5 会員総会においては、本会則に定めるもののほか事業報告および決算ならびに事業計画および予算の承認、本会則の変更ならびにその他幹事会が定める事項について決議する。

(幹事および監事)

第6条 本会に10名以下の幹事および2名以下の監事を置く。

2 幹事は、幹事会を構成し、監事は本会の会計を監査する。

3 幹事および監事は、会員総会においてこれを選任する。

4 幹事および監事の任期は、選任の翌々年に開催される定時会員総会終結の時までとする。

なお、増員または補欠により選任された幹事および監事の任期は、それぞれ他の現任幹事および監事の任期と同じとする。

(会長)

第7条 会員総会の決議により会長1名を定める。

2 会長は、会務を統括し本会を代表する。

(副会長および顧問)

第8条 会長の指名により幹事の中から副会長および会員の中から顧問各若干名を置くことができる。

2 副会長は、会長を補佐し、顧問は会長の諮問に応じて会長に助言する。

(幹事長)

第9条 会長の指名により幹事の中から幹事長1名を置く。

2 幹事長は、会務の処理に当たる。

(幹事会)

第10条 幹事会は、会長が招集し議長となる。会長に事故ある場合は、副会長がこれに当たる。

2 幹事会の決議は、出席幹事の過半数をもって決する。

(会計年度)

第11条 本会の会計年度は、毎年4月1日から3月31日までとする。

(年会費)

第12条 会員は、1会計年度当たり金1千円の年会費をその会計年度の始まる30日前までに納入しなければならない。

なお、会計年度の途中において入会する場合であっても全額を納入しなければならぬものとする。

2 5会計年度を超えない会計年度の年会費を一括して前払い納入することができる。この場合その会計年度間に年会費の変更があったとしてもその差額について精算することはない。

3 いったん納入された年会費は、退会その他いかなる事情があろうともこれを返戻しない。

(寄付金および補助金)

第13条 本会は、寄付金および補助金を受けることができる。

(事務局)

第14条 本会の事務局は、山口市企画調整課にこれを置く。

附則

この会則は、平成11年2月6日から施行する。

附則

この会則は、平成11年7月31日から施行する。

資料  
[ 会 員 名 簿 ]

平成15年6月20日現在

資料  
[ 役 員 名 簿 ]

平成15年4月1日現在

秋貞 雅祥  
浅田 育生  
浅海 弘士  
東 善啓  
石井志都子  
石井 能成  
石田 順康  
石山 嘉平  
板藤 滋  
伊藤 孝雄  
上田健二郎  
薄上 博子  
内田 計手  
宇野 晃  
大田 哲彦  
大舌 秀城  
大濱 雅宣  
大村 欣也  
岡崎 純生  
岡村 史利  
岡本 和清  
岡本 浩次  
小川 勝義  
小川 浩次  
尾崎 薫  
尾崎 正彦  
落合 博彦

鬼武 正彦  
小野 俊彦  
開地 修二  
片山 哲男  
唐崎 純一  
河村 三生  
河村 良昭  
河村 芳邦  
賀屋 仁  
北村 勝彦  
北村 哲男  
京野 賀典  
清原 行雄  
楠川 徹  
國司 由行  
久保 潤二  
久保井 勉  
熊谷 繁夫  
蔵成 洋三  
小口 ゆい  
小島 明  
後藤 光朗  
小林 靖典  
小山昭一郎  
斉藤 光生  
斉藤 満徳  
酒井 和夫

坂田 有三  
迫村 裕子  
佐々木四郎  
佐々木節子  
貞國 鎮  
佐内 弘人  
三瓶 玲子  
重宗 雄造  
嶋 雅章  
清水 邦夫  
勝谷 保  
白上孝千代  
白木 肇  
白須 宏  
末谷 芳朗  
関 和貴  
関岡 忠秋  
関橋 眞理  
高橋 亨  
高橋 紀夫  
高畑 元信  
高見沢顕二郎  
高邑 勉  
多田 敏秋  
田中 邦治  
田中 善作  
田中 久夫

谷川 洋司  
田村 泰志  
津田 恭子  
坪井栄一郎  
鶴岡 信一  
寺内 敬  
寺下 英明  
照沼 光代  
徳田 成美  
徳久 徹  
戸倉 敏雄  
富田 捷治  
長井 健  
中野 靖  
中畑 秋恵  
中村 省三  
中村 隆夫  
西崎 守  
新関 祐子  
西見 宏行  
能地 靖夫  
野村 克政  
則近 憲佑  
橋本 史郎  
林 茂樹  
原川 健  
原田喜久男

原田 修輔  
原田 兆  
原田 俊明  
原田 秀夫  
原田 佳明  
原野 和夫  
檜垣 裕文  
平井 宏  
廣井 誠  
深野 孝篤  
福井 広海  
福嶋 雅人  
藤井健次郎  
藤井 忠俊  
藤井 朋憲  
藤井 正弘  
藤井 靖史  
藤井 美和  
藤田三保子  
藤永 忠  
藤村 規  
藤本 潤祐  
藤本 節義  
藤本 稔  
古川 博義  
前田 俊弘  
益本圭太郎

松本 正人  
宮崎 隆晴  
森脇 逸男  
森脇 幸治  
八木 智  
八木重二郎  
矢儀 達也  
八木 華子  
安井 久士  
山岸 信子  
山根 和也  
山根 孝之  
山本 和生  
山本 恵次  
山本 直和  
山本 正生  
山本 順信  
吉田 宏  
吉田 充宏  
吉富 和彦  
吉富 宣夫  
吉原 勲  
脇田屋 進  
渡辺 光  
渡辺 茂

役職	氏名	役職	備考
会長	原野 和夫	時事通信社 顧問	元パシフィック野球連盟会長
副会長	白上 孝千代	白上孝千代法律事務所 弁護士	
副会長	迫村 裕子	(株) トランスフォーム 代表取締役	
幹事長	山本 和生	帝人化成(株) 管理本部長付 (株) ジャステック経理総務部総務課	
幹事	高見沢 顕二郎	早稲田大学ラグビー・オールド・ボーイズ倶楽部会長	
幹事	原田 俊明	(株) トレソーラ代表取締役社長	
幹事	福島 雅人	(株) エフエム山口 東京支社長	
幹事	八木 重二郎	新日本製鐵(株) 常務取締役エンジニアリング事業本部副本部長	
幹事	京野 賀典	日本アプレイザル(株) 代表取締役	不動産鑑定士
監事	浅田 育生	(株) 山口銀行 東京支店長	
顧問	片山 哲男	山口県東京事務所 所長	

発行日 平成15年8月

発行所 山口七夕会事務局

〒753-8650 山口市龜山町2番1号 山口市企画財政部 企画調整課内  
TEL 083-934-2746 FAX 083-934-2642

e-mail [tanabata@c-able.ne.jp](mailto:tanabata@c-able.ne.jp)

URL <http://www.c-able.ne.jp/~tanabata/>